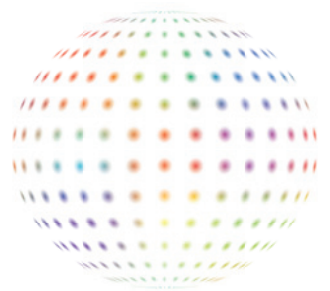


IV

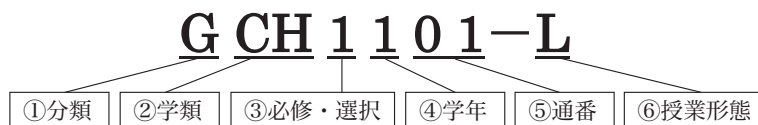
講義概要



科目ナンバリングについて

本学総合人間学部では、2019年度から科目ナンバリング制度を導入しています。
科目ナンバリング導入の目的は授業科目に特定の番号を付与し分類することで、学修の段階や順序等を示し、教育プログラムにおけるカリキュラムの体系性を明示する仕組みです。
科目ナンバリングを導入することで、学生が科目の水準や専門性に応じて適切な授業科目を選択し、受講する手助けとなります。

2023年度はP86の開講科目表に科目ナンバーを掲載します。科目ナンバリングの構造は以下の通りです。



①分類

一般教養科目 G 総合人間学部専門科目 I

②学類

〈一般教養科目〉

導入教育 FR (Freshman)
 キリスト教教学系 CH (Christianity)
 人文科学系 HU (Humanities)
 社会科学系 SS (Social Science)
 自然・情報科学系 NI (Natural Science&Information Technology)
 外国語 FL (Foreign Language)
 健康・スポーツ系 PE (Physical Education)
 キャリア教育 CE (Career Education)
 体験学修 EL (Experiential Learning)

〈専門科目〉

キリスト教人間学系 CS (Christian Studies)
 福祉相談援助系 SW (Social Work)
 地域福祉開発系 CD (Community Development)
 子ども支援系 CF (Child and Family Studies)
 臨床心理系 CP (Clinical Psychology)
 専門共通 AD (Advanced、国際、卒論等)

③各分類ごとの必修または選択

必修→1 選択→2 選択必修→3

④学年

1：大学1年次レベル
 2：大学2年次レベル
 3：大学3年次レベル
 4：大学4年次レベル

⑤学年ごとの通番

01から始め、学年ごとに通番する。

⑥授業形態

講義 L (Lecture) 演習 S (Seminar)
 実技 P (Practice) 実習 T (Training)

2023年度 開講科目表(2023年度以降1年次入学者)

開講科目表の見方

①必修・選択等欄： ○印：必修 ○印：選択必修 無印：選択 ×印：履修不可

教養(Liberal Arts)科目

	授 業 科 目	単位	履修年次 目安	開講状況	必修選択等	科目ナンバー	掲載 ページ
教 養 科 目	総合人間学序論	2	1	前期1	○	GFR1101-L	89
	キリスト教概論Ⅰ	2	1	前期1	○	GCH1101-L	89
	キリスト教概論Ⅱ	2	1	後期1		GCH1102-L	90
	社会福祉原論Ⅰ	2	1	前期1	○	GSS2101-L	91
	社会福祉原論Ⅱ	2	1	後期1		GSS2102-L	92
	心理学	2	1	前期1	○	GHU1101-L	93
	心理学概論	2	1	後期1		GHU2101-L	93
	コミュニケーションの演習	2	1	前期1・後期1	○	GFR1102-S	94
	データサイエンス入門	2	1	前期1	○	GNI1101-L	95
	フレッシュマンキャリアデザイン	2	1	前期1		GFR2101-L	96
	社会人キャリアデザイン	1	1・2・3	前期1		GFR2102-L	97
	キャリアデザイン基礎	2	2・3	2024		GCE2201-L	—
	キャリアデザイン実践	2	3	2025		GCE2301-S	—
	コンピュータ入門	2	1・2	前期1		GNI2101-P	98
	データサイエンス基礎	2	1	後期1	○	GNI1102-P	99
	視覚障害者 PC 入門	2	1	前期1		GNI2102-P	99
	英語 Reading	2	1	前期2	○〈1〉	GFL3101-S	100
	英語 Speaking/Listening	2	1	前期2	○〈1〉	GFL3102-S	101
	英語 Writing/Grammar	2	1	前期2	○〈1〉	GFL3103-S	102
	英語 Speaking/Listening 演習	2	2・3	2024	○〈1〉	GFL3201-S	—
目 群	英語特別演習 (Independent Study)	1	2・3・4	2024	○〈1〉	GFL3202-S	—
	ドイツ語初級Ⅰ	1	1	前期1		GFL2101-S	103
	ドイツ語初級Ⅱ	1	1	後期1		GFL2102-S	104
	日本語特講(留学生)Ⅰ	1	1・2	前期1		GFL2103-S	105
	日本語特講(留学生)Ⅱ	1	1・2	後期1		GFL2104-S	105
	憲法	2	1・2	前期1		GSS2103-L	106
	権利擁護を支える法制度	2	1・2	後期1		GSS2104-L	107
	社会学	2	1・2	前期1		GSS2105-L	108
	社会学Ⅱ	2	1・2	後期1		GSS2106-L	108
	環境学→九州ルーテル学院大学の「環境学」を単位互換	2	1・2・3・4	後期1		GNI2103-L	—
	文化史	2	1	前期1		GHU2102-L	109
	文化人類学	2	1・2	2024		GHU2103-L	—
	中世史との対話	2	1・2	前期1		GHU2104-L	110
	近世史との対話	2	1・2	後期1		GHU2105-L	111
	教育学	2	1・2	後期1		GHU2106-L	111
	教養としての哲学	2	1・2	前期1		GHU2107-L	112
	哲学と論理	2	1・2	後期1		GHU2108-L	113
	スポーツと健康(体育実技を含む)A	2	1・2	前期1		GPE2101-P	114
	スポーツと健康(体育実技を含む)B	2	1・2	後期1		GPE2102-P	114
	音楽の基礎	2	1・2	前期1		GHU2109-P	115
	音楽の実際	2	1・2	後期1		GHU2110-P	116
教養科目まとめ ・総合人間学序論、キリスト教概論Ⅰ、社会福祉原論Ⅰ、心理学、コミュニケーションの演習、データサイエンス入門、データサイエンス基礎は必修。 ・〈1〉英語科目のうち2単位以上を選択必修。 以上の必修、選択必修を含めて30単位以上を履修すること。							

専門科目

	授 業 科 目	単位	履修年次 目安	開講状況	必修選択等	科目ナンバー	掲載 ページ
社会福祉学系	社会福祉入門	2	1	後期1		ISW2101-L	117
	社会福祉の基礎	2	2	2024		ISW2201-L	—
	ソーシャルワーク論Ⅰ	2	2	2024		ISW2202-L	—
	ソーシャルワーク論Ⅱ	2	2	2024		ISW2203-L	—
	ソーシャルワーク論Ⅲ	2	2	2024		ISW2204-L	—
	ソーシャルワーク論Ⅳ(新)	2	4	2026		ISW2401-L	—

	授 業 科 目	単位	履修年次 目安	開講状況	必修選択等	科目ナンバー	掲載 ページ
社会福祉学系	ソーシャルワーク論Ⅴ(新)	2	4	2026		ISW2402-L	—
	高齢者福祉論	2	2	2024		ISW2205-L	—
	障害者福祉論	2	2	2024		ISW2206-L	—
	人体の構造と機能及び疾病	2	2	2024		ISW2207-L	—
	児童・家庭福祉論	2	2	2024		ISW2208-L	—
	地域福祉論Ⅰ	2	2	2024		ISW2209-L	—
	地域福祉論Ⅱ	2	3	2025		ISW2301-L	—
	社会保障論Ⅰ	2	2	2024		ISW2210-L	—
	社会保障論Ⅱ	2	3	2025		ISW2302-L	—
	公的扶助論	2	2・3	2024		ISW2211-L	—
	更生保護制度論	2	2・3	2024		ISW2212-L	—
	福祉サービスの組織と経営	2	3	2025		ISW2303-L	—
	保健医療サービス	2	3	2025		ISW2304-L	—
	社会福祉調査	2	3・4	2025		ISW2305-L	—
	精神保健	2	1・2・3・4	後期1		ISW2102-L	118
	社会福祉と国際協力	2	2・3・4	2024		ISW2213-L	—
	多文化ソーシャルワーク	2	2・3・4	2024		ISW2214-L	—
	地域支援技法Ⅰ	2	2・3・4	2024		ISW2215-L	—
	地域支援技法Ⅱ	2	2・3・4	2024		ISW2216-L	—
	ソーシャルワーク演習Ⅰ	2	1	前期1		ISW2103-S	119
	ソーシャルワーク演習Ⅱ	2	1	後期1	○〈2〉	ISW3101-S	120
	ソーシャルワーク演習Ⅲ	2	2・3	2024		ISW2217-S	—
	ソーシャルワーク演習Ⅳ	2	3	2025		ISW2306-S	—
	ソーシャルワーク演習Ⅴ	2	3	2025		ISW2307-S	—
	ソーシャルワーク演習Ⅵ	2	4	2026		ISW2403-S	—
	ソーシャルワーク・キャリアアップゼミ	2	4	2026		ISW2404-S	—
	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ(新)	2	2・3	2024		ISW2218-S	—
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ(新)	2	3・4	2025		ISW2308-S	—
	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ(新)	2	3・4	2025		ISW2309-S	—
	ソーシャルワーク実習指導Ⅳ(新)	2	3・4	2025		ISW2310-S	—
	ソーシャルワーク実習指導Ⅴ(新)	1	3・4	2025		ISW2311-S	—
	ソーシャルワーク実習Ⅰ(新)	3	2・3	2024		ISW2219-T	—
	ソーシャルワーク実習Ⅱ(新)	4	3・4	2025		ISW2312-T	—
	ソーシャルワーク現場体験実習	4	3・4	2025		ISW2313-T	—
	社会福祉特講	2	4	2026		ISW2405-S	—
臨床心理学系	臨床心理フレッシュマンゼミ	2	1	後期1	○〈2〉	ICP3101-S	121
	心理学的支援法	2	1	前期1		ICP2101-L	122
	心理学統計法	2	1	後期1		ICP2102-L	123
	臨床心理学概論	2	1・2	前期1		ICP2103-L	124
	カウンセリング実技の基本	2	2	2024		ICP2201-L	—
	発達心理学	2	2	2024		ICP2202-L	—
	障害者・障害児心理学	2	2	2024		ICP2203-L	—
	関係行政論	2	2	2024		ICP2204-L	—
	心理学研究法Ⅰ(データ解析)	2	2	2024		ICP2205-S	—
	心理学実験	2	2	2024		ICP2206-S	—
	心理的アセスメント	2	2・3・4	2024		ICP2207-L	—
	心理学研究法Ⅱ(観察法・面接法・実験法)	2	3・4	2025		ICP2301-S	—
	公認心理師の職責	2	2・3・4	2024		ICP2208-L	—
	精神疾患とその治療	2	2・3・4	2024		ICP2209-L	—
	知覚・認知心理学	2	2・3・4	2024		ICP2210-L	—
	学習・言語心理学	2	2・3・4	2024		ICP2211-L	—
	感情・人格心理学	2	2・3・4	2024		ICP2212-L	—
	神経・生理心理学	2	2・3・4	2024		ICP2213-L	—
	社会・集団・家族心理学	2	2・3・4	2024		ICP2214-L	—
	産業・組織心理学	2	2・3・4	2024		ICP2215-L	—
	健康・医療心理学	2	2・3・4	2024		ICP2216-L	—
	福祉心理学	2	3・4	2025		ICP2302-L	—
	教育・学校心理学	2	2・3・4	2024		ICP2217-L	—
	司法・犯罪心理学	2	2・3・4	2024		ICP2218-L	—
	心理演習	2	2	2024		ICP2219-S	—
	心理実習Ⅰ	2	2	2024		ICP2220-T	—
	心理実習Ⅱ	2	3	2025		ICP2303-T	—
	心理検査技法演習	2	2・3・4	2024		ICP2221-S	—
	質問紙調査法	2	3	2025		ICP2304-S	—
	質的研究法	2	2・3・4	2024		ICP2222-L	—
	交流分析	2	2・3・4	2024		ICP2223-L	—
	精神分析学	2	2・3・4	2024		ICP2224-L	—
	サイコドラマⅠ	1	2・3・4	2024		ICP2225-P	—
	サイコドラマⅡ	1	2・3・4	2024		ICP2226-P	—
	サイコドラマⅢ	1	2・3・4	2024		ICP2227-P	—
	サイコドラマⅢ演習	1	2・3・4	2024		ICP2228-P	—
	卒業演習プレゼミナール	1	3	2025		ICP2305-S	—
	臨床心理英語論文読解	2	2・3・4	2024		ICP2229-L	—
	臨床心理特講(大学院進学支援講座)	1	2・3・4	2024		ICP2230-L	—
人間学系	いのち学序説	2	1・2	後期1		ICS2101-L	125
	人間学フレッシュマンゼミ	2	1	後期1	○〈2〉	IAD3101-S	125
	旧約聖書精読	2	1・2	後期1		ICS2102-L	126
	新約聖書精読	2	2・3	2024		ICS2201-L	—
	キリスト教の人間観Ⅰ(新)(偶数年隔年開講)	2	2・3・4	2024		ICS2202-L	—

	授 業 科 目	単位	履修年次 目安	開講状況	必修選択等	科目ナンバー	掲載 ページ
人 間 学 系	キリスト教の人間観Ⅱ（新）（奇数年隔年開講）	2	2・3・4	2025		ICS 2203-L	—
	人間の尊厳と人権	2	2・3・4	2024		IAD 2201-L	—
	生命倫理	2	2・3・4	2024		IAD 2202-L	—
	いのちのキリスト教史	2	2・3・4	2024		ICS 2204-L	—
	聖書に見るジェンダー（偶数年隔年開講）	2	3・4	2026		ICS 2301-L	—
	人間・いのち・世界	2	3・4	2025	◎	IAD 1301-L	—
	食といのちと環境	2	1・2	前期1		IAD 2101-L	126
	日本の宗教	2	1	後期1		IAD 2102-L	128
	世界の宗教	2	2・3	2024		IAD 2203-L	—
	民俗学	2	2・3	2024		IAD 2204-L	—
	美術史（偶数年隔年開講）	2	2・3・4	2024		IAD 2205-L	—
	キリスト教美術特講（偶数年隔年開講）	2	2・3・4	2024		ICS 2205-L	—
	キリスト教音楽実技Ⅰ	2	1・2・3・4	通年		ICS 2103-P	128
	キリスト教音楽実技Ⅱ	1	2・3・4	2024		ICS 2206-P	—
	キリスト教音楽実技Ⅲ	1	2・3・4	2024		ICS 2207-P	—
ル ケ ア 科 目 群 （スピリチュア）	現代スピリチュアルケア序論	2	2・3	2024		IAD 2201-L	—
	現代日本人のスピリチュアリティ	2	3・4	2025		IAD 2301-L	—
	キリスト教とスピリチュアルケアの実践	2	4	2026		ICS 2401-L	—
	ターミナルケアとグリーフワーク	2	2・3・4	2024		IAD 2202-L	—
	子どものグリーフワークとプレイセラピー（奇数年隔年開講）	2	2・3	2025		ICF 2201-L	—
科 目 群 （子ども支援）	保育原理と保育士の専門性	2	2	2024		ICF 2201-L	—
	保育士特講Ⅰ	2	1・2・3・4	前期1		ICF 2101-L	129
	保育士特講Ⅱ	2	1・2・3・4	後期1		ICF 2102-L	130
	子どもと家族の心理福祉の諸課題	2	2	2024		ICF 2202-L	—
	小児と高齢者の栄養	2	2・3・4	2024		ICF 2203-L	—
	野外活動とキャンピング	2	1・2・3・4	前期1		ICF 2103-P	131
演 習 業 （卒業）	卒業演習Ⅰ	2	3	2025		IAD 2301-S	—
	卒業演習Ⅱ	2	4	2026		IAD 2401-S	—
	卒業演習Ⅲ	2	4	2026		IAD 2402-S	—
(卒業論文)	卒業論文	4	4	2026		IAD 2401-S	—
専門科目まとめ ・人間学系の人間・いのち・世界を必修とする。 ・(2)社会福祉学系のソーシャルワーク演習Ⅱ、臨床心理学系臨床心理フレッシュマンゼミ、人間学系人間学フレッシュマンゼミのうち1科目2単位を選択必修とする。 以上の選択必修を含めて、72単位以上を取得すること。							
卒業要件 教養科目から必修、選択必修を含めて30単位以上 専門科目から選択必修を含めて72単位以上 以上を含めて124単位以上を取得することが必要							

総合人間学序論

科目ナンバー	GFR1101-L
2単位：前期1コマ	1年 必修
原島 博、樋野 興夫、ジャン・プレゲンス、 上村 敏文、高山 由美子、山口 麻衣、加藤 純、 田副 真美、河田 優	

【到達目標】

- (1) 人間とは何か、人間の尊厳とは何かを多面的に考察し理解することができる。
- (2) 地域、日本、世界を構成する私たちはどのような社会づくりをめざすべきなのか。それを学際的に考察し理解することができる。
- (3) 大学の理念、5つのコースの内容、アプローチ、連携のシステムを理解し、自らの職業選択などに活かすことができる。

【履修の条件】

総合人間学部の必修科目であり、新生は入学初年度に必ず受講すること。

【講義概要】

人間を魂とこころと生活、家族や地域社会と関わる存在として総合的に理解し、対人援助に関わる高度専門職業人としての基礎を培う。そのために、キリスト教の人間理解と世界への洞察を軸として、人間存在を包括的・総合的に理解する。特に、「いのち」を巡る諸問題を探求する力と人間の存在を重んじる心を涵養し、他者との関係性に生きること、その倫理について学ぶ。さらに、総合人間学序説としての学びを具体的なキャリアに結びつけながら、学びをふかめていく。

■授業計画

- | | | |
|------|-----------------|----------|
| 第1回 | 総合人間学とは | |
| 第2回 | 人間：いのちと尊厳 | |
| 第3回 | キリスト教と日本文化 | |
| 第4回 | 福祉と人間 | |
| 第5回 | 地域と人間 | |
| 第6回 | 子ども・家族と人間 | |
| 第7回 | こころと人間 | |
| 第8回 | 異文化・多文化における人間理解 | |
| 第9回 | 聖書と人間 | |
| 第10回 | 開発・発展と人間 | |
| 第11回 | 楕円形のこころ① | |
| 第12回 | 楕円形のこころ② | |
| 第13回 | 聖書とがん① | |
| 第14回 | 聖書とがん② | |
| 第15回 | 総合人間学をふりかえって | レポート・テスト |
| 第16回 | - | |

【成績評価】

試験(0%)、レポート(80%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(20%)

【成績評価(備考)】

「その他の評価方法」とは、毎回提出するリアクションペーパーの内容や、授業時における質疑応答などの内容により評価する。

【予習・復習の内容及びそれに必要な時間】

指定テキストの各単元の要約と重要語句について、また、毎回配布される講義資料により予習・復習をすること。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

【試験・レポート等のフィードバック】

リアクションペーパーに対するフィードバックを原則として次の講義内容において行う。また、授業内での質問等はその都度コメントする。

【ディプロマポリシーとの関連性】

1.いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性、3.総合的・実践的な学習能力、4.他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力に該当する。宗教、生活、子ども、こころ、いのち、言語、文化など学際的に人間理解を進めることにより、人間を包括的にとらえることができる価値・知識・技術を身につける。

【テキスト】

がん細胞から学んだ生き方「ほっとけ 気にするな」のがん哲学(へるす出版)樋野興夫 1800円+税

【参考文献】

「聖書とがん」(イーグレープ)1600円+税

キリスト教概論Ⅰ

科目ナンバー	GCH1101-L
2単位：前期1コマ	1年 必修
河田 優	

【到達目標】

- ①「キリストの心を心とする」という建学の精神に基づいて教育を進める本学において、専門的な学びを始める前に基盤となるキリスト教の概要を理解する。
- ②聖書を中心に学びを進めるが、その他にも歴史等、様々な面からキリスト教を学び、今の私たちの生活にも影響を与えているキリスト教についての知識を深める。

【履修の条件】

必修。特に条件はなし。キリスト教に関心を持って授業に臨むことを期待します。

【講義概要】

毎時間の授業は、授業ごとにテーマを定め、概論として聖書をはじめ読む学生にもわかりやすくキリスト教を紹介していくことになります。

時には、ビデオなどの視聴覚教材を用いながら、より理解を深めていきます。またキリスト教に関する働きに従事する特別講師による講義もあります。

随時、質問を受け付けるようにし、丁寧に学びを進めていきます。

■授業計画

- | | |
|-----|--|
| 第1回 | ミッションスクールとしてのルーテル学院①
オリエンテーション テキスト(聖書)の紹介 ルーテル学院の礼拝、宗教活動について学ぶ |
|-----|--|

- 第2回 ミッションスクールとしてのルーテル学院②
 本学の建学の精神とミッションステートメントについて学ぶ
- 第3回 身近にある様々な教会とカルトとの違い
 地域のキリスト教会を紹介し、それぞれの特徴を知る。
- 第4回 社会に生きるキリスト者
 信仰者として社会奉仕をされている方の講演を聞く。
- 第5回 聖書の紹介①
 世界中で読まれている聖書の成立から私たちの手元に届くまで
- 第6回 聖書の紹介②
 旧約聖書の構成とよく知られている物語を紹介
- 第7回 聖書の紹介③
 新約聖書の構成とよく知られている物語を紹介
- 第8回 聖書の示すキリスト教会
 キリスト教会の使命について
- 第9回 キリスト教の歴史①
 教会の成立から十字軍まで
- 第10回 キリスト教の歴史②
 ルターの宗教改革から現代まで
- 第11回 日本とキリスト教
 キリスト教伝来から現代の教会
- 第12回 キリスト教から現代を考える①
 聖書から見るわたしたちのいのちと性
- 第13回 キリスト教から現代を考える②
 さまざまな社会問題に対する取り組み
- 第14回 まとめ
 ルーテル学院での私たちの学びとキリスト教について考える。
- 第15回 試験
- 第16回 ー

〔成績評価〕

試験(70%)、レポート(10%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(20%)

〔成績評価(備考)〕

発言など授業での積極的な取り組み

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

授業ごとに次の授業内容テーマを予告するので、指定された聖書箇所、関連の図書などをあらかじめ読む。復習としては、授業内容と関連した事柄を調べ、毎回ノートにまとめる。各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

授業後に提出されたリアクションペーパーは、次の授業にフィードバックを行う。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

本学ディプロマポリシーの「いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」に該当する。聖書をテキストに「神が愛しておられるいのち」について学び、互いのいのちの尊厳のために仕え合う人間性を養っていく。

〔テキスト〕

新共同訳聖書(日本聖書協会発行)。代わりに新改訳聖書や口語訳聖書でも構いません。3回目講義までに準備してください。オリエンテーションで聖書の紹介をします。

〔参考文献〕

土井かおる著 よくわかるキリスト教(PHP研究所)1,350円
 富田正樹著 キリスト教資料集(日本キリスト教団出版局)1,000円

〔備考〕

授業では毎回、聖書は欠かさず持参してください。
 礼拝や聖書についての学びのためにも、学校の礼拝や地域の教会の礼拝にも積極的に出席してください。

キリスト教概論Ⅱ	
科目ナンバー	GCH1102-L
2単位：後期1コマ	1年
河田 優	

〔到達目標〕

- ①聖書から特にイエス・キリストの生涯を学び、罪ある人間を救おうとされる神の愛と人々に奉仕する生き方について理解します。
- ②現代社会のさまざまな問題を、キリスト教的な考え方からも捉えていくことができる程の基礎的学力を得ます。
- ③福祉やカウンセリング、地域社会や子供などの専門分野での学びにどのようにキリスト教の教えが関わっているかを学び、専門的な学びの土台とします。

〔履修の条件〕

条件ではないが、キリスト教概論Ⅰを履修済みであることが望ましい。また、キリスト教に関心を持って積極的な発言を期待します。

〔講義概要〕

毎時間の授業は、聖書から学ぶことが中心です。聖書をはじめて読む学生にもわかりやすく聖書の言葉を解説します。時には、ビデオなどの視聴覚教材、さらにワークシートなどを用いながら、より理解を深めます。

キリスト教活動に関わる特別講師を招き、講義をすることがあります。

随時、質問を受け付けるようにし、丁寧に学びを進めます。

■授業計画

- 第1回 オリエンテーション
 日本人の宗教観とキリスト教について
- 第2回 宗教って何だろう
 世界の様々な宗教と比較して考えるキリスト教
- 第3回 キリスト教から見る神について
 神はいるのか、どのような存在なのか。
- 第4回 キリスト教から見る人間について
 聖書の創造物語と罪の問題
- 第5回 イエス・キリスト①

- イエス・キリストが現れる時代背景について
- 第6回 イエス・キリスト②
イエスの誕生と公生涯のはじめ
- 第7回 イエス・キリスト③
イエスの宣教と教え(マタイ福音書「山上の説教」から)
- 第8回 イエス・キリスト④
イエスが起こしたとされる様々な奇跡とその意味
- 第9回 イエス・キリスト⑤
十字架へと向かうイエスの受難について
- 第10回 イエス・キリスト⑥
イエスの十字架と復活とは
- 第11回 宗教改革とマルティン・ルター
ルターの信仰と生涯を学ぶ
- 第12回 キリスト教と出会った人々①
愛と奉仕に生きた人々の紹介(歴史的な人物から)
- 第13回 キリスト教と出会った人々②
愛と奉仕に生きる人々の紹介(現在の社会の中で)
- 第14回 まとめ
キリスト教を土台としたミッションスクールで学び、遣わされていく私たち
- 第15回 試験
- 第16回 -

〔成績評価〕

試験(70%)、レポート(10%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(20%)

〔成績評価(備考)〕

発言などによる授業への積極的な取り組み。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

授業ごとに次の授業内容テーマを予告、その授業内容に関連の本などを予め読む。また授業内容についてノートを作成する。各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。本科目では各授業回に4時間の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

時に授業でリアクションペーパーを提出する。そのフィードバックは次の授業においてなされる。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

本学のディプロマポリシーである「いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」に該当する。特にキリスト教の中心であるイエスの言葉とその生涯を学ぶ中で、隣人への愛とそれを表す生き方について深く学ぶ。

〔テキスト〕

新共同訳聖書(日本聖書協会発行)。代わりに新改訳聖書や口語訳聖書でも構いません。

〔参考文献〕

土井かおる著 よくわかるキリスト教(PHP研究所)1,350円
富田正樹著 キリスト教資料集(日本キリスト教団出版局)1,000円

〔備考〕

授業では毎回、聖書は欠かさず持参してください。
礼拝や聖書についての学びのためにも、学校や地域の教会の礼拝にも積極的に出席してください。礼拝出席の感想を課題とする場合があります。

社会福祉原論Ⅰ

科目ナンバー	GSS2101-L
2単位：前期1コマ	1年 必修
浅野 貴博	

〔科目補足情報〕

社会福祉士受験資格取得のための指定科目であり、2年次以降の「ソーシャルワーク実習Ⅰ及びⅡ」の履修を希望する者は、本科目を一定以上の成績で単位取得する必要がある。

〔到達目標〕

ソーシャルワーカーを含む対人援助職(Helping profession)を目指す上で考えなければならない、「社会福祉」は何のためにあるのかという本質的な問いに対して、「人権(Human rights)」を軸として学びを深める。

- ①社会福祉の基本である人権とは何かを理解する。
 - ②社会福祉における人権の意義について、社会福祉の諸分野における様々な問題を通して理解する。
 - ③人権を支援するソーシャルワークの存在意義について理解する。
- ※本科目を通し、「主体的に」学ぶ姿勢を身に付けることが強く望まれる。

〔履修の条件〕

- ・教養科目の必修科目である。
- ・社会福祉士の受験資格取得を目指す者は、同じく指定科目である「社会福祉原論Ⅱ」(後期)と併せて履修すること。

〔講義概要〕

「社会福祉」は何のためにあるのかについて、「人権」を軸にした上で、様々な社会問題を通して学ぶ。授業では、受講生の問題関心を深めるために、新聞記事や視聴覚教材等を適宜活用しながら、小グループでのディスカッションも取り入れて進められる。

■授業計画

- 第1回 オリエンテーション：授業の概要と方針について
- 第2回 レポートのまとめ方
- 第3回 人権とは何か(1)
- 第4回 人権とは何か(2)
- 第5回 社会福祉における人権(1)
- 第6回 社会福祉における人権(2)
- 第7回 社会福祉の諸分野と人権(1)：貧困
- 第8回 社会福祉の諸分野と人権(2)：児童
- 第9回 社会福祉の諸分野と人権(3)：障がい
- 第10回 社会福祉の諸分野と人権(4)：高齢
- 第11回 社会福祉の諸分野と人権(5)：マイノリティ①(女性)
- 第12回 社会福祉の諸分野と人権(6)：マイノリティ②(外国にルーツのある人)

第13回 社会福祉の諸分野と人権(7)：マイノリティ③
(LGBTQ+)

第14回 人権を支援するソーシャルワーク

第15回 ※定期試験は実施しない

第16回 ー

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(70%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(30%)

〔成績評価(備考)〕

- ・前半と後半に2回のレポートを課す(詳しくは授業で説明する)。
- ・「その他の評価方法」については、毎回の授業時に提出を課すリアクションペーパーにより評価する。
- ・定期試験は実施しない。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。レポート課題の作成に向けて、授業等で紹介された参考文献を読み、自分の考えを言語化することを意識する。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

リアクションペーパーに対するフィードバックを授業の中で行う。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

〔2.全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性〕及び〔3.総合的・実践的な学習能力〕に該当する。

〔テキスト〕

特定のテキストは使用しない。授業において、適宜参考文献を紹介する予定。

〔参考文献〕

木原活信(2014)『〔シリーズ・福祉を知る①〕社会福祉と人権』ミネルヴァ書房

社会福祉原論Ⅱ

科目ナンバー	GSS2102-L
2単位：後期1コマ	1年
浅野 貴博	

〔科目補足情報〕

社会福祉士受験資格取得のための指定科目であり、2年次以降の「ソーシャルワーク実習Ⅰ及びⅡ」の履修を希望する者は、本科目を一定以上の成績で単位取得する必要がある。

〔到達目標〕

- ①日本および欧米における社会福祉の歴史を概観した上で、「社会福祉」は何のためにあるのかについて、その思想と理論を踏まえて学びを深める。
- ②社会福祉制度と近年の動向について学んだ上で、ソーシャルワークの意義について考える。

※本科目を通し、受け身ではなく、「主体的に」学ぶ姿勢を身に付けることが強く望まれる。

〔履修の条件〕

社会福祉士の受験資格取得を目指す者は、同じく指定科目である「社会福祉原論Ⅰ」(前期)と併せて履修すること。

〔講義概要〕

「社会福祉原論Ⅰ」で学んだ「人権」を中心とした社会福祉の理念を踏まえた上で、社会福祉の歴史や社会福祉制度を学ぶことを通して、「社会福祉」は何のためにあるのかについて考える。授業では、受講生の問題関心を深めるために、新聞記事等も適宜活用しながら、小グループでのディスカッションも取り入れて進められる。

■授業計画

- 第1回 オリエンテーション：授業の概要と方針について
- 第2回 社会福祉の歴史：日本の歩み(1)
- 第3回 社会福祉の歴史：日本の歩み(2)
- 第4回 社会福祉の歴史：日本の歩み(3)
- 第5回 社会福祉の歴史：欧米の歩み(1)
- 第6回 社会福祉の歴史：欧米の歩み(2)
- 第7回 社会福祉の思想と理論(1)
- 第8回 社会福祉の思想と理論(2)
- 第9回 社会福祉の思想と理論(3)
- 第10回 社会福祉制度と近年の動向(1)
- 第11回 社会福祉制度と近年の動向(2)
- 第12回 社会福祉制度と近年の動向(3)
- 第13回 社会福祉におけるソーシャルワークの方法と担い手(1)
- 第14回 社会福祉におけるソーシャルワークの方法と担い手(2)
- 第15回 ※定期試験は実施しない
- 第16回 ー

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(30%)、小テスト(40%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(30%)

〔成績評価(備考)〕

- ・レポートに加えて、小テスト(※2回)を実施する。なお、小テストは、授業で習った知識についての穴埋め問題とする(詳しくは授業で説明する)。
- ・定期試験は実施しない。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。小テストに備えて復習を行うこと。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

小テストの実施後に問題の解説を行い、必要な基礎知識の理解を促す。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

〔2.全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性〕及び〔3.総合的・実践的な学習能力〕に該当する。

【テキスト】

特定のテキストは使用しない。授業において、適宜参考文献を紹介する予定。

【参考文献】

各社から出版されている社会福祉士養成講座の『社会福祉の原理と政策』を参照のこと。

心理学		
科目ナンバー	GHU1101-L	
2単位：前期1コマ	1年 必修	
松田 崇志		

【到達目標】

本講義では、心理学の基本的な知識の習得を目標としている。また、日常生活場面や対人援助場面における人間の行動について、授業で紹介する内容と結びつけて考えることができるようになることを目標とする。

【履修の条件】

特になし

※後期の「心理学概論」と連続した内容である。

【講義概要】

心理学は人間の「心」を理解しようとする学問である。前期の心理学では、「錯視はなぜ起きるのか?」「どうしたら効率的に記憶できるのか?」といった人間の情報処理についての内容や、「どのように経験によって行動を変容させていくのか?」「人は生涯にわたりどのように発達していくのか?」といった学習と発達についての内容を中心に、心理学を広く概観していく。各授業の中では、それぞれのテーマについて概説するとともに、簡単な実験や調査を入れながら、心理学の知見を確認する。授業はパワーポイントを用いて行う。

■授業計画

- 第1回 オリエンテーション、講義の進め方、心とは?
- 第2回 心理学とは何か?
- 第3回 知覚①：視知覚
- 第4回 知覚②：注意の仕組み
- 第5回 記憶①：記憶の仕組み
- 第6回 記憶②：記憶術
- 第7回 記憶③：日常生活における記憶
- 第8回 言語と思考
- 第9回 学習①：古典的条件づけ
- 第10回 学習②：オペラント条件づけ
- 第11回 学習③：社会的学習
- 第12回 感情と動機づけ
- 第13回 発達①：乳幼児・児童・青年
- 第14回 発達②：成人・老年
- 第15回 試験
- 第16回 -

【成績評価】

試験(80%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、そ

の他の評価方法(20%)

【成績評価(備考)】

最終試験に加え、毎回の授業の感想の記入および授業中に課す課題の提出によって成績評価を行う。

【予習・復習の内容及びそれに必要な時間】

授業後に配布資料を見返す、授業中に紹介する参考文献の該当箇所を読むなどして復習をすること。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

【試験・レポート等のフィードバック】

授業の感想・質問などに対するフィードバックを次回の講義において行う。

【ディプロマポリシーとの関連性】

「4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を習得することで、他者理解が深まり、より円滑な人間関係の構築に必要な知識を習得することができる。

【テキスト】

特になし

【参考文献】

- ①内田一成(監訳)「ヒルガードの心理学(第16版)」金剛出版 2015年 (本体価格:22,000円+税)
- ②無藤隆他「心理学(New Liberal Arts Selection)」有斐閣 2004年 (本体価格:3,700円+税)
- ③金沢創・市川寛子・作田由衣子「ゼロからはじめる心理学・入門-人の心を知る科学(有斐閣ストゥディア)」有斐閣 2015年(本体価格:1,800円+税)
- ④青木紀久代・神宮英夫「カラー版 徹底図解 心理学」新星出版社 2008年 (本体価格:1,500円+税)

【備考】

授業の進度などに応じて、授業内容を変更することがある。

心理学概論		
科目ナンバー	GHU2101-L	
2単位：後期1コマ	1年	
松田 崇志		

【到達目標】

本講義では、心理学の基本的な知識の習得を目標としている。また、日常生活場面や対人援助場面における人間の行動について、授業で紹介する内容と結びつけて考えることができるようになることを目標とする。

【履修の条件】

特になし。

※前期の「心理学」と連続した内容である。

【講義概要】

心理学は人間の「心」を理解しようとする学問である。本講義で

は、「心理学の成り立ち」について、心理学の歴史と応用について紹介する。また、「人の心の基本的な仕組み及び働き」について、生物学的基礎、知能、パーソナリティ、社会、臨床の各領域の知見や理論について広く概観していく。

各授業の中では、それぞれのテーマについて概説するとともに、簡単な実験や調査を入れながら、心理学の知見を確認する。授業はパワーポイントを用いて行う。

■授業計画

第1回	オリエンテーション、講義の進め方、授業に使用する参考文献の紹介
第2回	心理学の成り立ち
第3回	心の生物学的基盤：脳の構造と機能、自律神経系・内分泌系、遺伝
第4回	知能：知能の理論、知能検査
第5回	パーソナリティ：パーソナリティの理論、パーソナリティの発達
第6回	社会①：対人関係：印象形成、対人魅力
第7回	社会②：社会的認知：原因帰属、ステレオタイプ、対人認知
第8回	社会③：集団：他者の存在、同調、服従
第9回	臨床①：心の健康と不適応
第10回	臨床②：精神障害
第11回	臨床③：心理アセスメント
第12回	臨床④：心理療法
第13回	心理学の展開①：産業・組織心理学
第14回	心理学の展開②：教育心理学・犯罪心理学
第15回	試験
第16回	－

【成績評価】

試験(80%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(20%)

【成績評価(備考)】

最終試験に加え、毎回の授業の感想の記入および授業中に課す課題の提出によって成績評価を行う。

【予習・復習の内容及びそれに必要な時間】

授業後に、配布資料を見返す、授業中に紹介する参考文献の該当箇所を読むなどして復習をすること。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)が必要とする。

【試験・レポート等のフィードバック】

授業の感想・質問などに対するフィードバックを次回の講義において行う。

【ディプロマポリシーとの関連性】

「4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を習得することで、他者理解が深まり、より円滑な人間関係の構築に必要な知識を習得することができる。

【テキスト】

特になし

【参考文献】

- ①内田一成(監訳)「ヒルガードの心理学(第16版)」 金剛出版 2015年 (本体価格：22,000円+税)
- ②無藤隆他「心理学(New Liberal Arts Selection)」 有斐閣 2004年 (本体価格：3,700円+税)
- ③金沢創・市川寛子・作田由衣子「ゼロからはじめる心理学・入門-人の心を知る科学(有斐閣ストゥディア)」 有斐閣 2015年 (本体価格：1,800円+税)
- ④青木紀久代・神宮英夫 「カラー版 徹底図解 心理学」新星出版社 2008年 (本体価格：1,500円+税)

【備考】

授業の進度などに応じて、授業内容を変更することがある。

コミュニケーションの演習

科目ナンバー	GFR1102-S
2単位：前期1/後期1コマ	1年 必修
田中 雅幸	

【到達目標】

- 1.日本語の表記、特質について理解し正しい文章(レポート、小論文等)を書けること。
- 2.自分の探求すべきテーマ・問題を発見すること。
- 3.探求すべきテーマ・問題について適切な方法を用いて情報を収集できること。
- 4.探求すべきテーマ・問題について適切に資料や情報を探し出し、それらを論理的な文章としてまとめることができること。

【履修の条件】

講義には当然継続性があるので、コミュニケーション能力を高めるためにできるだけ欠席せずに参加することが必要である。小テストも継続的に行うので欠席を避ける。講義には国語辞書(携帯に便利なもので可、電子辞書も可)を必ず持参のこと。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習復習等)を必要とする。

同一年度内の再履修はできません。

【講義概要】

現在、情報技術の飛躍的な発展によって、コミュニケーションのあり方は実に多様化している。そのような状況の中で、自分に必要な適切な情報を取捨選択し、それを自分の思考に生かすことは非常に難しくなっている。本講義では、このような情報の洪水の中で自分の必要な情報や知識を探し出し、レポートや論文を作成するための基礎的な能力を身につけることを目標とする。

授業は基本的にパワーポイントを用いた講義と演習(文章作成やグループワークなど)を組み合わせる。また、講義の冒頭に毎回漢字の小テストを実施する。

■授業計画

- 第1回 オリエンテーション-講義概要の説明、文章に関するアンケートの実施、自己紹介文を書く。
- 第2回 文章表現①：日本語の文字の特性、表記上のルールを理解する。
- 第3回 文章表現②：文章表現上のレトリックおよび文体につ

- いて理解する。
- 第4回 文章表現③：悪文の特性を理解し、わかりやすい文章を書けるようにする。
- 第5回 文章表現④：賛否型小論文を書く
- 第6回 テーマ・問題：自分の探求すべきテーマ・問題の発見方法を理解する。
- 第7回 文章・文献の読み方①：速読の方法を理解する。
- 第8回 文章・文献の読み方②：精読の方法・要約の方法を理解する。
- 第9回 文章・文献の読み方③：文章批評の方法を理解する。
- 第10回 社会調査：質的研究の方法を理解する。
- 第11回 社会調査：データの読み取り方を理解する。
- 第12回 社会調査：量的調査の方法を理解する
- 第13回 研究計画：今後の研究計画を作成する。
- 第14回 レポートの提出
- 第15回 -
- 第16回 -

【成績評価】

試験(0%)、レポート(30%)、小テスト(30%)、課題提出(40%)、その他の評価方法(0%)

【成績評価(備考)】

欠席した場合の小テストの再試験は実施しないので欠席は極力避けること。授業への参加度が重要。

【予習・復習の内容及びそれに必要な時間】

本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

小テストは必ず事前学習をして受けること。

【試験・レポート等のフィードバック】

講義内で課した課題については適宜授業時にコメントする。

【ディプロマポリシーとの関連性】

他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力及び総合的・実践的な学習能力に該当する。文章表現能力を身につけることにより他の人々との協働作業を創り、社会に貢献できる。また文章で表現をすることで自己を対象化でき、自分の思いや考えを深めることができる。

【テキスト】

『漢検 2級 漢字学習ステップ』(改訂四版)日本漢字能力検定協会 1320円+税

その他の教材はすべて担当で作成する。

【参考文献】

「新しい国語表記ハンドブック」(第八版)三省堂 800円+税

※その他の参考文献は随時講義内で提示する。

【備考】

毎回国語辞書を持参すること。電子辞書可。

データサイエンス入門

科目ナンバー	GNI1101-L
2単位：前期1コマ	1年 必修
岸 洋子	

【到達目標】

①データサイエンスとは何か、なぜデータサイエンスが必要なのか、といった基本的なデータリテラシーを学ぶ。

②社会においてどのようにデータが活用されているかを理解する。

③データを可視化して適切に読み解くことや説明することを学ぶ。

④データ利用に関する倫理の問題について理解する。

【履修の条件】

特にありません。

【講義概要】

現在、教育や保育、福祉の現場や企業などには、その分野が抱える課題などを示すさまざまなデータが溢れています。こうしたデータは、私たちの日常生活に関わりのあるさまざまな領域でも活用されています。たとえば、医療の分野では疾病の早期発見や進行予測にデータが利用され、道路・交通の分野では渋滞の予測や自動運転技術などにもデータが活用されています。本授業では、将来、皆さんがデータをわかりやすく表現したり、データの示すことを正しく理解するための基礎知識をできる限りわかりやすく丁寧に教えます。また、本授業では、実社会においてデータがどのように活用されているのかを体感し、データを身近に感じる機会となることも目的としています。このことは、教育や保育、福祉の現場や企業などを目指す履修者にも役に立つものと思います。このように、データは社会の抱えるさまざまな課題を解決する手がかりとすることができる一方、その使用にあたっては、プライバシーの尊重や知的所有権の尊重など、留意しなければいけないことがあります。本授業では、こうした情報倫理についての理解を深めることも目的としています。

基本的には講義形式の授業になりますが、一部の題材については映像や画像を活用し、現代社会とデータの関わりについて紹介することも予定しています。なお、本授業を履修するに際して、基礎知識は一切、不要です。成績は試験とレポートで評価します。

■授業計画

- 第1回 ・オリエンテーション(講義の概要と進め方について)
・データサイエンスとは①：
社会で起きている変化とデータサイエンスの必要性について学ぶ
- 第2回 ・データサイエンスとは②：
データサイエンスの考え方を学ぶ(PPDAC メソッドの活用)
・データを知る：
データにはさまざまなタイプがあることを学ぶ(データの種類)
・事例紹介
- 第3回 ・データサイエンスと情報倫理①：
個人情報、プライバシー保護

- ・事例紹介
- 第4回 ・データサイエンスと情報倫理②：
情報セキュリティ、情報の適正利用
- ・事例紹介
- 第5回 ・世の中には様々なデータがあることを知ろう：データの種類
- 第6回 ・データを読む：
集計されたデータを可視化することを学ぶ
- ・事例紹介
- 第7回 ・データの性質を知る①：
代表値(ヒストグラム、平均、中央値、最頻値)
- ・事例紹介
- 第8回 ・データの性質を知る②：
クロス集計と検定
- ・事例紹介
- 第9回 ・データの性質を知る③：
散布図、相関、相関と因果の違い
- ・事例紹介
- 第10回 ・データの性質を知る④：
データ分析で注意すべき点(観察研究と実験研究)
- ・事例紹介
- 第11回 ・データの性質を知る⑤：
重回帰
- ・事例紹介
- 第12回 ・データの性質を知る⑥：
主成分・因子分析
- ・事例紹介
- 第13回 ・データの性質を知る⑦：
クラスター分析
- ・事例紹介
- 第14回 ・データサイエンスを体験する：
データ収集の方法を学ぶ。公表されている統計データを探してみる。
- ・事例紹介
- 第15回 試験
- 第16回 -

〔成績評価〕

試験(60%)、レポート(40%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(0%)

〔成績評価(備考)〕

授業中にレポートを書いてもらうことがあります。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

レポートについては、受講者に共有することで理解が深まるような視点や新たな視点があった場合は、適宜次回以降の講義内で紹介します。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

3. 総合的・実践的な学習能力に該当する。データを通して、ものごとの本質を把握し、問題点の発見や、分析、事態の改善や解

決策の提言をすることができることを学ぶ。次のステップとして、データを適切に読み解く力や説明する力を身につけるための、基礎知識を得る。

〔テキスト〕

使用しません(授業で配布する講義資料をもってテキストに代える)。

〔参考文献〕

授業時に必要に応じて適宜紹介します。

〔備考〕

現代の社会で様々なデータがどのように活用されているのかを適時、紹介しながら授業を進めて行きます。一部の題材については映像や画像を活用する予定です。

フレッシュマンキャリアデザイン	
科目ナンバー	GFR2101-L
2単位：前期1コマ	1年
加藤 純	

〔科目補足情報〕

2023年度以降の1年次入学者を対象とした科目です。
社会人入学生・編入学生は「社会人キャリアデザイン」を、2022年度までの入学者は「子ども支援キャリアデザイン」を履修してください。

〔到達目標〕

- 1)生活課題や心理的課題について支援する施設や機関の機能や、働く職員の役割などについて具体的なイメージを持ち、各自が将来の進路を現実的に描けるようになることを目指します。
- 2)将来の進路希望に向けて、本学の科目をどのように組み合わせるかを計画を立てられることを目指します。

〔履修の条件〕

将来の進路や資格について考えたい学生はコースや学年を問わず履修できます。

〔講義概要〕

生活課題や心理的課題に関する支援をする仕事や資格について解説します。

先輩の在校生や卒業生などをゲストスピーカーとして招き、ボランティアや実習、仕事の体験を踏まえて、支援のやりがいや難しさなどについて話して頂きます。学生や卒業生の都合により、下記の日程や内容を変更することがあります。

生活課題や心理的課題に関する支援についてイメージを作るために映像資料をみます。

まとめとして、具体的な仕事の内容を理解するために各自が調べた成果を発表してもらいます。

■授業計画

- 第1回
1. オリエンテーション(授業の目標、方法、課題など)
 2. 総合的支援とは何か、生物心理社会的アプローチの視点から考えてみましょう

- 第2回 専門性と資格
 1. 専門性とは何でしょう?
 2. 資格とは何でしょう?
 3. 専門性を身につけるために大切な学習とは何か考えてみましょう。
- 第3回 在学中のアルバイトやボランティア
 1. どのような体験ができるのか?
 2. どのような力が養われるのか?
 3. 将来にどのように役立つのか?
 高齢者施設での仕事
- 第4回 スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを目指すには
 1. どのような仕事をするのでしょうか?
 2. どうやったらなれるのでしょうか?
 3. 勤務時間や給料は?
- 第5回 学童保育や児童館での仕事と資格
- 第6回 障害児への支援をするアルバイトやボランティア
- 第7回 児童福祉施設の職員を目指すには
 1. どのような仕事をするのでしょうか?
 2. どのような職員がいるのでしょうか?
 3. どうやったらなれるのでしょうか?
- 第8回 社会福祉施設での心理職の仕事と資格
- 第9回 地域の相談機関での仕事と資格
- 第10回 海外の地域開発を支援する仕事と本学での教育プログラム
- 第11回 野外活動やレクリエーションによる子ども支援
- 第12回 心理実習による専門性の学習
- 第13回 ソーシャルワーク実習による専門性の学習
- 第14回 生活課題や心理的課題に関する支援をする仕事について調べたこと(発表)
 将来の進路設計と大学での学習計画
- 第15回 レポート提出
- 第16回 -

【成績評価】

試験(0%)、レポート(30%)、小テスト(0%)、課題提出(40%)、その他の評価方法(30%)

【成績評価(備考)】

レポート：自分が目指したい仕事について調べ、どのような役割を持つ専門職か、その役割を果たすためにどのような知識や技術、価値観が必要かを説明して下さい。これから大学でどのように学んでいきたいかを記して下さい。課題は Google フォームに解答を示します。毎回の授業への参加や発展的な学習の取組状況等です。

【予習・復習の内容及びそれに必要な時間】

社会福祉や臨床心理の仕事について具体的なイメージが思い浮かべられるように本を読んだり、テレビやDVDを観たりしてください。また、ボランティアなど体験を通して学ぶ機会を作ることをお勧めします。

本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とします。

【試験・レポート等のフィードバック】

レポートはメールにより提出してください。提出されたレポートに

は、オンラインでコメントを記します。

【ディプロマポリシーとの関連性】

「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当します。この科目を履修することにより、各自が目指す専門職のイメージを描き、大学において学習すべき専門性とは何かを明確にすることを目指します。

【テキスト】

特になし。

【参考文献】

汐見稔幸(2011)『子どもにかかわる仕事』岩波ジュニア新書683号

【備考】

実務経験のある教員による科目。児童養護施設、教育委員会、児童相談所などでの職務経験を活かして、子どもを支援する様々な職員の役割と専門性について指導します。

社会人キャリアデザイン		
科目ナンバー	GFR2102-L	
1単位：前期1コマ	1～3年	
加藤 純		

【科目補足情報】

社会人編入や社会人入学をした学生を対象とした科目です。1年次入学生は「フレッシュマンキャリアデザイン」を、2022年度までの1年次入学生は「子ども支援キャリアデザイン」を履修してください。

【到達目標】

社会人としての経験を活かして、どのような支援者を目指すのか将来像を描き、大学での学習計画を立てられることを目標とします。

【履修の条件】

将来の進路や資格について考えたい編入生・社会人入学者は学年を問わず履修できます。

【講義概要】

生活課題や心理的課題に関して支援する仕事や資格について解説します。

先輩の編入生や社会人学生などから体験談を聴き、意見交換をすることを通して、社会人としてどのような学習ができるかイメージを作ります。

先輩の在校生や卒業生などをゲストスピーカーとして招き、ボランティアや実習、仕事の体験、支援のやりがいや難しさなどについて話して頂きます。学生や卒業生の都合により、下記の日程や内容を変更することがあります。

7回の授業のうち5回は、「フレッシュマンキャリアデザイン」と合同で開講します。2回は水曜2限の学科の時間などに社会人・編入生のみを対象にした授業を実施します。

■授業計画

- 第1回 1. オリエンテーション(授業の目標、方法、課題など)
2. 総合的支援とは何か、生物心理社会的アプローチの視点から考える。
- 第2回 専門性と資格
1. 専門性とは何か
2. 資格とは何か
3. 専門性を身につけるために大切な学習
- 第3回 社会人・編入生としての学習(先輩との懇談)
- 第4回 社会福祉施設での心理職の仕事と資格
- 第5回 心理実習による専門性の学習
- 第6回 ソーシャルワーク実習による専門性の学習
- 第7回 社会人・編入生としての進路設計と学習計画
- 第8回 レポート提出
- 第9回 ー

【成績評価】

試験(0%)、レポート(50%)、小テスト(0%)、課題提出(20%)、その他の評価方法(30%)

【成績評価(備考)】

レポート：自分が目指したい仕事について調べて、どのような役割を担う専門職か、その役割を果たすためにどのような知識や技術・価値観が必要かを説明してください。またその専門性を身につけるために、大学でどのように学習するか計画を記してください。

【予習・復習の内容及びそれに必要な時間】

将来目指したい仕事について具体的なイメージを作れるように本を読んだり、テレビやDVDなどを観たりしてください。本科目では、各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習など)を必要とします。

【試験・レポート等のフィードバック】

レポートはオンラインで提出をしてください。差し支えなければ、調べた結果を他の学生と共有する方法で提出して頂ければ幸いです。提出されたレポートには、オンラインでコメントを記します。

【ディプロマポリシーとの関連性】

「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当します。この科目を履修することにより、各自が目指す専門職のイメージを描き、大学において学習すべき専門性は何かを明確にします。

【テキスト】

特になし。

【参考文献】

特になし。

【備考】

実務経験のある教員による科目。児童養護施設、教務委員会、児童相談所などでの職務経験を活かして、社会福祉や臨床心理の支援をする様々な職員の役割と専門性について指導します。

コンピュータ入門

科目ナンバー	GNI2101-P
2単位：前期1コマ	1～2年
佐藤 舞	

【到達目標】

①パソコンの基礎知識と基本的操作技術を身につけること。②大学生のレポート・論文作成のために必要なワードの基本操作を習得すること。

【履修の条件】

・MS Wordで課題を作成できるように、パソコンとアプリを準備すること。

なお、macOSの使用を制限はしませんが、講義はWindows準拠で進めますので、macOSの操作方法是扱いません。また、macOSの場合の操作方法を質問されても対応いたしかねます。

・遠隔講義の場合、動画を視聴するためのイヤホン・ヘッドホン等をご用意ください。

(視覚障害者のためのPCクラスについては別途、実施されます。)

【講義概要】

本講義では、実際にパソコンを使用して演習を行う。各回の最初、その回で学習する技能についてレジュメ(またはパワーポイント)に基づいて説明し、説明された操作方法に沿って各自で課題を行う。これらの演習を通して、大学生のレポート・論文作成のために必要なワードの基本操作を習得することを目指す。なお、一部の題材についてはDVD等映像や音楽を使用する場合もある。

■授業計画

- 第1回 オリエンテーション(本講義の目的、概要、構成)
- 第2回 パソコンの基礎知識
- 第3回 タイピング演習
- 第4回 電子メール
- 第5回 電子メールの書き方
- 第6回 ワード(1)(和文・英文の入力)
- 第7回 ワード(2)(文字書式)
- 第8回 ワード(3)(段落書式)
- 第9回 ワード(4)(ページ設定1)
- 第10回 ワード(5)(ページ設定2)
- 第11回 課題作成・質問回答
- 第12回 ワード(6)(その他の機能)
- 第13回 課題作成・質問回答
- 第14回 課題作成・質問回答
- 第15回 ー
- 第16回 ー

【成績評価】

試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(60%)、その他の評価方法(40%)

【成績評価(備考)】

単位認定のために提出が必須の課題(60%)のほか、任意提出

の課題(40%)を設ける。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

課題が講義時間内に完了しなかった場合には、自分のパソコンか大学のパソコンなどを用いて課題を仕上げるよう求める。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

課題内容について、適宜口頭またはメール文面でコメントする。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

4.他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力に該当する。この科目を習得することで、見やすく、わかりやすいレポートや論文を作成して自分の考えを的確に伝えるための技能を身につけることができる。

〔備考〕

ファイルの保存媒体は各自で選んでかまわないが、大学のパソコンを使用する際は USB メモリ等に保存すること。また、講義で扱う内容は状況に応じて変更する可能性がある。

データサイエンス基礎		
科目ナンバー	GNI1102-P	
2単位：後期1コマ	1年	必修
佐藤 舞		

〔到達目標〕

①エクセルを使った表計算とグラフ作成の方法を身につけること。②エクセルの表やグラフを挿入したワード文書を作成することができるようになること。③今日の情報社会において、資料情報などのデータ収集整理や ICT の有効活用についての的確に応じるための基礎を習得すること。

〔履修の条件〕

・こちらから指定する条件は特にありません。

〔講義概要〕

本講義では、実際にノートパソコンを使用して演習を行う。各回の最初に、その回で学習する技能についてレジュメ(またはパワーポイント)に基づいて説明し、説明された操作方法に沿って各自で課題を行う。これらの演習を通して、大学生のレポート・論文作成のために必要なエクセルの基本操作やデータサイエンスの基礎を習得することを目指す。なお、一部の題材についてはグループワークを取り入れる場合もある。

■授業計画

第1回	オリエンテーション(本講義の目的、概要、構成)
第2回	パソコンの基礎知識
第3回	エクセル(1)(エクセルの基礎知識)
第4回	エクセル(2)(ワークシートの基本操作1)
第5回	エクセル(3)(ワークシートの基本操作2)
第6回	課題作成・質問回答
第7回	エクセル(4)(セル参照)

第8回	エクセル(5)(グラフ作成)
第9回	エクセル(6)(図表を含むレポート作成)
第10回	課題作成・質問回答
第11回	エクセル(7)(データの活用)
第12回	演習(1)(データ収集・コーディング)
第13回	演習(2)(データ作成・加工)
第14回	演習(3)(データ分析)
第15回	-
第16回	-

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(70%)、その他の評価方法(30%)

〔成績評価(備考)〕

任意提出の課題を提出した場合、その完成度に応じて加点評価する(30%)。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

課題が講義時間内に完了しなかった場合には、自分のパソコンか大学のパソコンなどを用いて課題を仕上げるよう求める。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

課題内容について、授業内に適宜口頭でコメントする。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

3.総合的・実践的な学習能力に該当する。この科目を習得することで、社会における問題をデータから発見し、分析して対策を考え、実行するためのリテラシーを身につけることができる。

〔備考〕

講義には USB メモリ等の保存媒体を持参すること。また、講義で扱う内容は状況に応じて変更する可能性がある。

視覚障害者 PC 入門		
科目ナンバー	GNI2102-P	
2単位：前期1コマ	1年	
荒川 明宏		

〔到達目標〕

- ①パソコンの基礎知識と基本的操作技術を身につけること。
- ②大学生のレポート・論文作成のために必要なパソコンの基本操作を習得すること。

〔履修の条件〕

視覚障がい学生で、スクリーンリーダーでパソコン操作をする方を対象とする。

〔講義概要〕

本講義では、実際に受講する学生のレベルを見ながら授業をすすめる。ノートパソコンを使用して演習を行う。説明された操作方法に沿って課題を行う。これらの演習を通して、大学生のレポー

ト・論文作成のために必要なパソコンの基本操作を習得することを目指す。

■授業計画

第1回	オリエンテーション(本講義の目的、概要、構成)、必要な視覚障害者向け機器の確認
第2回	音声化ソフト並びに Windows のショートカット
第3回	パソコンの基礎知識
第4回	電子メール・メールの書き方
第5回	タイピング演習、熟語登録
第6回	ワード(1)(和文・英文の入力)
第7回	ワード(2)(文字書式)
第8回	ワード(3)(段落書式)
第9回	ワード(4)(ページ設定)
第10回	ワード(5)(表の作成)
第11回	Internetによる検索
第12回	Excelの基本操作(計算式)
第13回	Excelでの表の作成
第14回	Word・Excelでの質問回答
第15回	-
第16回	-

[成績評価]

試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(100%)

[成績評価(備考)]

授業ごとに課題に取り組む。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]

本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]

授業内容について、授業内に適宜口頭でコメントする。

[ディプロマポリシーとの関連性]

4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力に該当する。この科目を習得することで、見やすく、わかりやすいレポートや論文を作成して自分の考えを的確に伝えるための技術を身につけることができる。

英語 Reading		
科目ナンバー	GFL3101-S	
2単位：前期2コマ	1年	
ジャン・ブレゲンズ		

[到達目標]

英語の文書のレトリック(文書の構造)を把握して、読解力をたかめる。また、語彙を増やす方法も教える。

[履修の条件]

- (1)授業は、前期2コマ。
- (2)語学の学習では、日頃の規則的な予習・復習が不可欠である。

る。

(3)本授業の出席については、欠席数が総授業回数の1/4以上となった場合は、単位認定が受けられなくなるので、注意が必要である。

(4)授業で課せられる課題(assignment)は、定められた期日に提出することが必要である。定められた提出期限に遅れた課題については、1/2の課題としてしか評価されないので注意が必要である。

[講義概要]

○ この授業では、常に辞書に頼ることなく、英文を効果的に英語で読んでいくためのスキルを習得することを目指している。接頭辞、接尾辞ラテン語を起源とする語幹の学習を中心としたreadingに必要な語彙力の増強が授業の中心となる。

○ 語彙力の増強と並行して、Scanning(特定の情報を読み出す読み方、拾い読み)、Skimming(文の大意を読みとる読み方、斜め読み)に加えて、文の複数の主題をまとめるスキル、段落の中心概念(main idea)を読みとるスキル等の習得にも強調がおかれる。時事英文にも取り組む。

受講には最新版のテキストが必要です。必ず購入して受講してください。テキストなく受講しても単位が認められません。

■授業計画

第1回	Reading Faster Introduction/ Diagnostic Test/ Parts of speech(Jabberwocky)
第2回	Word study History of the English language
第3回	Latin Stems/ Prefixes/ Introduction to extensive reading Keeping a Vocabulary Notebook
第4回	Unit 1, Lesson 1
第5回	Unit 1, Lesson 2
第6回	Unit 1, Lesson 3
第7回	Quiz on A,B, Unit 2, Lesson 1
第8回	Unit 2, Lesson 2
第9回	Quiz on C, D, Unit 2, Lesson 3(Review)
第10回	Unit 3, Lesson 1
第11回	Quiz on E, F Unit 3, Lesson 2
第12回	Unit 3, Lesson 3
第13回	Quiz on G, H Unit 4, Lesson 1
第14回	Unit 4, Lesson 2
第15回	Quiz on I, J, K, L Unit 4, Lesson 3(Review)
第16回	Unit 5, Lesson 1 Understanding Topics
第17回	Quiz on M Introduction to Reading Projects/Authentic materials Vocabulary Notebooks Part 1
第18回	Reading Patterns The Listing Pattern
第19回	Quiz on N, O The Time Order Pattern

- 第20回 Unit 5, Lesson 2
 第21回 Quiz on P
 Unit 5, Lesson 3
 第22回 The Comparison Pattern
 第23回 Quiz on Q,R,S
 The Cause/Effect Pattern
 第24回 Unit 6 Lesson 1
 第25回 Quiz on T-Z
 Unit 6 Lesson 2
 第26回 Unit 6 Lesson 3 (Review)
 Vocabulary Notebooks Part 2
 第27回 Unit 7 Lesson 2
 第28回 Reading Projects
 第29回 Reading Projects
 第30回 -
 第31回 -
 第32回 -

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(30%)、小テスト(50%)、課題提出(20%)、その他の評価方法(0%)

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

毎回の宿題は不可欠。特に毎週の Vocabulary Quiz の復習がとめられています。本科目では、各授業100分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

二回、単語のノートのチェックで、学生一人ひとりと指示します。Reading Projectは個人的指導、フィードバック。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力
 コミュニケーション能力を身につけ、他者の思いや考えの理解と抱えている問題への共感、自己の思索の深化と意思の言語化、人間関係の構築、意見の交換、社会への考えの表明などを、状況に応じて適切に行うことができるようになること。

〔テキスト〕

Patricia Ackert et al, Reading and Vocabulary Development 1, Fact and Figures, Fourth Edition. National Geographic Learning (Cengage) ¥3340 (ISBN 9789814896535)

〔参考文献〕

特になし

英語 Speaking/Listening	
科目ナンバー	GFL3102-S
2単位：前期2コマ	1年
ジャン・ブレゲンズ、アデレード・アミサ	

〔到達目標〕

英語の発音、発声、Formulaic expressions(挨拶など、)実用的な会話の訓練と習得。

〔履修の条件〕

- (1) 語学の学習では、日頃の規則的な予習・復習が不可欠である。
- (2) この授業では、単に出席するだけでなく、積極的に授業に参加する(active participation)ことが求められ、評価の大切な要因となります。
- (3) 本授業の出席については、欠席数が総授業回数の1/4以上となった場合は、学期末の定期試験の受験資格を失い、単位認定が受けられなくなるので、注意が必要である。
- (4) 授業出席が極端に悪い場合、履修の中止を命じられることもあるので、注意が必要である。

〔講義概要〕

- 授業は、充実した指導を徹底させるために2グループに分かれ、2グループがほぼ同じ内容の学習ができるように努める。
 - 英語の Speaking と Listening のスキル(技能)のダイナミックスを習得することに重きが置かれる。
 - 主に、自然なスピードの英語の発音・リズム・アクセント・イントネーション・発音上の省略形の学習を通して聴解力の増強に努める。実際の内容のある練習・演習も織り込んで、英語によるこの授業では、学生が今まで習ってきた英語を用いて話していくスキルとしての Speaking と Listening を促進するための実践的な方策についても学びを行う。
- 受講には最新版のテキストが必要です。必ず購入して受講してください。テキストなく受講しても単位が与えられません。

■授業計画

- | | |
|------|---|
| 第1回 | 1) Introduction to Course |
| 第2回 | 1) Introductions
2) Phonetics Test |
| 第3回 | 1) Practice
2) Clear Speech : Vowel sounds |
| 第4回 | 1) Lesson 1 A
2) Clear Speech : Vowel and Consonant sounds |
| 第5回 | 1) Lesson 1 A
2) Clear Speech, pp. 2-6 |
| 第6回 | 1) Lesson 1 B
2) Clear Speech, pp. 7-9 |
| 第7回 | 1) Lesson 1 B
2) Clear Speech, Unit 2 |
| 第8回 | 1) Lesson 2 A
2) Clear Speech, Units 2-3 |
| 第9回 | 1) Lesson 2 A
2) Clear Speech, Unit 4 |
| 第10回 | 1) Lesson 2 B
2) Clear Speech, Unit 4 |
| 第11回 | 1) Lesson 2 B
2) Clear Speech, Unit 5 |
| 第12回 | 1) Lesson 3 A
2) Clear Speech, Unit 5 |
| 第13回 | 1) Lesson 3 A
2) Clear Speech, Unit 6 |
| 第14回 | 1) Lesson 3 B
2) Clear Speech, Unit 7 |
| 第15回 | 1) Lesson 3 B
2) Clear Speech, Unit 7 |

- 第16回 1)Review
2)Midterm Test(Phonetics/Lexicarry)
- 第17回 1)Review
2)Clear Speech, Test, pp. xiii-xv
- 第18回 1)Lesson 4A
2)Clear Speech, Unit 8
- 第19回 1)Lesson 4A
2)Clear Speech, Unit 8
- 第20回 1)Lesson 4B
2)Clear Speech, Unit 9
- 第21回 1)Lesson 4B
2)Clear Speech, Unit 10
Pronunciation Review
- 第22回 1)Lesson 5A
2)Clear Speech, Unit 11
- 第23回 1)Lesson 5A
2)Clear Speech, Unit 11
- 第24回 1)Lesson 5B
2)Clear Speech, Unit 15
- 第25回 1)Lesson 5B
2)Clear Speech, Unit 15
- 第26回 1)Lesson 6A
2)Clear Speech, Unit 15
- 第27回 1)Lesson 6A
2)Clear Speech Test
- 第28回 1)Lesson 6B/Review
2)Review
- 第29回 Speaking Test
- 第30回 -
- 第31回 -
- 第32回 -

〔成績評価〕

試験(30%)、レポート(0%)、小テスト(30%)、課題提出(40%)、その他の評価方法(0%)

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

教科書のCDを復習する。本科目では、各授業100分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

試験の結果、中間テストで一人一人を評価する。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

4.他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力
コミュニケーション能力を身につけ、他者の思いや考えの理解と抱えている問題への共感、自己の思索の深化と意思の言語化、人間関係の構築、意見の交換、社会への考えの表明などを、状況に応じて適切に行うことができるようになること。

〔テキスト〕

Judy B. Gilbert, Clear Speech(4rd Edition),(Cambridge University Press)定価¥2,499
Angela Buckingham, et al., Get Real 1(New Edition),(Macmillan)定価¥2,500

〔参考文献〕

特になし

英語 Writing/Grammar	
科目ナンバー	GFL3103-S
2単位：前期2コマ	1年
ジャン・ブレゲンズ	

〔到達目標〕

英語の文書の種類、段落(paragraph)の構造を学ぶ。

〔履修の条件〕

- (1)語学の学習では、日頃の規則的な予習・復習が不可欠である。
- (2)本授業の出席については、欠席数が総授業回数の1/4以上となった場合は、学期末の定期試験の受験資格を失い単位認定が受けられなくなるので、注意が必要である。
- (3)授業出席が極端に悪い場合、履修の中止を命じられることもあるので、注意が必要である。
- (4)授業で課せられる課題(assignment)は、定められた期日に提出することが必要である。定められた提出期限に遅れた課題については、1/2の課題としてしか評価されないので注意が必要である。

〔講義概要〕

- 英語の Grammar のポイントをふまえながら、Writing の力をつけていくための学習をする。
- 授業では、個人的及びビジネス上の手紙文を書く等の実際的な書く練習も豊富に含まれる。
- 受講には最新版のテキストが必要です。必ず購入し受講してください。テキストなく受講しても単位が認められません。

■授業計画

- 第1回 Class rules/ Common mistakes in English
- 第2回 Unit 1. The Paragraph, Topic Sentences
- 第3回 Unit 1. Paragraph form, More on Topic Sentences
- 第4回 Unit 1. Supporting sentences, Concluding sentences
- 第5回 Unit 1. Unity, Coherence
- 第6回 Unit 1 Run-on sentences, Review (Self-introduction)
- 第7回 Unit 1 Review
- 第8回 Unit 2 Descriptive paragraphs, use of the articles
- 第9回 Unit 2. Descriptive paragraphs, specific details
- 第10回 Unit 2. Adjectives, adjective order
- 第11回 Unit 2. The Be Verb, Review
- 第12回 Unit 3 Example paragraphs, sentence type
- 第13回 Unit 3. Examples as supporting details, Clustering
- 第14回 Unit 3. Simple present, review of sentence type, developing an outline
- 第15回 Unit 3. Review

- 第16回 Unit 4. Process paragraphs,
 第17回 Unit 4. Time-order words in process paragraphs
 第18回 Unit 4 Imperative sentences, advice, necessity, prohibition modals
 Review
 第19回 Personal letter/ Giving directions
 第20回 Unit 5. Narrative paragraphs
 第21回 Unit 5. Narrative paragraphs, sensory details, order of events
 第22回 Unit 5 The simple past, past continuous
 Review
 第23回 Business letters
 第24回 Unit 6. Opinion paragraphs
 第25回 Unit 6. Opinion paragraphs, facts and opinions
 第26回 Unit 6. Mechanics : there is/are; because/because of
 Review
 第27回 Final writing composition : brainstorming, outlining
 第28回 Final composition : sentences, organization
 第29回 Final Composition
 第30回 -Final Composition
 第31回 -
 第32回 -

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(20%)、小テスト(0%)、課題提出(80%)、その他の評価方法(0%)

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

毎回の宿題の提出、復習が必要。宿題のなおし、2回目のチェック。本科目では、各授業100分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

宿題の個人的指導、説明。学生は宿題を一回書きなおして、もう一度チェックを受ける。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力
 コミュニケーション能力を身につけ、他者の思いや考えの理解と抱えている問題への共感、自己の思索の深化と意思の言語化、人間関係の構築、意見の交換、社会への考えの表明などを、状況に応じて適切に行うことができるようになること。

〔テキスト〕

Alice Savage and Masoud Shafiei, Effective Academic Writing, The Paragraph
 Second Edition, Oxford¥3696

ドイツ語初級 I

科目ナンバー	GFL2101-S
1単位：前期1コマ	1年
多田 哲	

〔科目補足情報〕

オンデマンド形式の講義です。

〔到達目標〕

文字の読み方や発音などの初歩から始めて、ドイツ語の理解に不可欠である基礎を身につけます。

〔履修の条件〕

指定の教科書と独和辞書を用意してください。
 後期の「ドイツ語初級 II」を履修するには、この「ドイツ語初級 I」を履修しておくこと。「ドイツ語初級 I」と「ドイツ語初級 II」は連続した講義を行います。

〔講義概要〕

ドイツといえば、ビールやソーセージを思い浮かべるでしょうか。あるいは、中世そのままに残る美しい街並みや壮麗なお城を思い浮かべるでしょうか。ドイツは、宗教改革者マルティン・ルター(マルチン・ルーテル)が生まれ育ったところであり、ルーテルの故郷の地です。音楽の父バッハや、文豪ゲーテ、哲学者カントを育んだドイツの歴史と文化は、ドイツ語によって綴られてきました。ドイツ語を学ぶと、その歴史と文化、そしてルーテルの精神に直に触れることができます。講義では基本的な文法を習得しながら、ドイツ語圏諸国の文化事情なども扱います。
 講義はオンラインで行います。各回、YouTube による動画配信とPDF による資料配布で受講してもらい、Google フォームで課題に答えてもらいます。

■授業計画

- 第1回 ドイツ語のアルファベットと発音、ドイツ語圏の国々の紹介
 第2回 ドイツ語で自己紹介(1) 人称代名詞
 第3回 ドイツ語で自己紹介(2) 動詞の現在形
 第4回 ドイツ語で自己紹介(3) 疑問文
 第5回 ドイツ語で仲良くなる(1) 不規則動詞
 第6回 ドイツ語で仲良くなる(2) 分離動詞
 第7回 ドイツ語で仲良くなる(3) 否定疑問文
 第8回 ドイツ語で注文する(1) 冠詞
 第9回 ドイツ語で注文する(2) 否定冠詞
 第10回 ドイツ語で注文する(3) 複数形
 第11回 ドイツ語で頼みごと(1) 話法の助動詞1
 第12回 ドイツ語で頼みごと(2) 話法の助動詞2
 第13回 ドイツ語で頼みごと(3) 話法の助動詞3
 第14回 前期の復習
 第15回 -
 第16回 -

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(50%)、小テスト(0%)、課題提出(50%)、その他の評価方法(0%)

〔 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 〕

学習した事柄は毎回復習しておきましょう。次回の土台となります。教科書には音声ダウンロードが付いています。日頃から耳も慣らすよう心がけましょう。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔 試験・レポート等のフィードバック 〕

提出課題のフィードバックは次回の授業時に行います。

〔 ディプロマポリシーとの関連性 〕

4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力に該当します。ドイツ語を学ぶことによりコミュニケーションの可能性を広げ、アクセスできる情報を増やすとともに、ドイツ語圏諸国の文化や歴史への理解を深めます。

〔 テキスト 〕

薦田奈美、渡邊紗代、Angela Niehaus 著『行ってみようドイツ！コミュニケーション・ドイツ語講座[改訂版]』2023年、白水社。本体2,700円+税。
教科書は2023年発行の[改訂版]を使いますので、古書店等で旧版を買わないように注意してください。

〔 参考文献 〕

中島悠爾、平尾浩三、朝倉巧『必携ドイツ語文法総まとめ - 改訂版 - 』白水社、2003年、本体1600円+税。
独和辞書はさまざまな出版社から出ています。特に指定はありません。電子辞書でも可。

〔 備考 〕

語学の講義は、読む、書く、聞く、話すという視聴覚要素で構成されていますが、視覚や聴覚に障がいがあり提供の視聴覚教材の利用が難しい場合は、申し出てください。別の方法を考えます。

ドイツ語初級Ⅱ

科目ナンバー	GFL 2102-S
1単位：後期1コマ	1年
多田 哲	

〔 科目補足情報 〕

オンデマンド形式の講義です。

〔 到達目標 〕

ドイツ語の基礎を学び、平易な文章や日常会話の理解に不可欠な要素を習得します。

〔 履修の条件 〕

指定のテキスト(教科書)と独和辞書を用意してください。この「ドイツ語初級Ⅱ」を履修するには、前期の「ドイツ語初級Ⅰ」を履修している必要があります。「ドイツ語初級Ⅰ」と「ドイツ語初級Ⅱ」は連続した講義を行います。

〔 講義概要 〕

ドイツといえば、ベンツやBMWを思い浮かべるでしょうか。ある

いは、サッカーのブンデスリーガや脱原発・エコロジーを思い浮かべるでしょうか。ドイツは、宗教改革者マルティン・ルターが生まれ育ったところであり、ルーテルの始まりの地です。楽聖ベートーベンや、科学者アインシュタインを育んだドイツの歴史と文化は、ドイツ語によって綴られてきました。ドイツ語を学ぶと、その歴史と文化、そしてルーテルの精神に直に触れることができます。ドイツ語は元々、英語と同じ言語から派生した姉妹言語で、文法がよく似ています。講義では基本的な文法を習得しながら、簡単な会話にも挑戦し、ドイツ語圏諸国の文化事情なども扱います。講義はオンラインで行います。各回、YouTubeによる動画配信とPDFによる資料配布で受講してもらい、Google フォームで課題に答えてもらいます。

■授業計画

- 第1回 前期の復習
- 第2回 ドイツ語で家族の紹介(1) 所有冠詞1
- 第3回 ドイツ語で家族の紹介(2) 所有冠詞2
- 第4回 ドイツ語で家族の紹介(3) 人称代名詞
- 第5回 ドイツ語で過去の話(1) 完了形1
- 第6回 ドイツ語で過去の話(2) 完了形2
- 第7回 ドイツ語で過去の話(3) 過去形
- 第8回 ドイツ語で買い物(1) 冠詞類1
- 第9回 ドイツ語で買い物(2) 冠詞類2
- 第10回 ドイツ語で買い物(3) 冠詞類3
- 第11回 ドイツ語でさようなら(1) 命令形
- 第12回 ドイツ語でさようなら(2) 前置詞1
- 第13回 ドイツ語でさようなら(3) 前置詞2
- 第14回 後期の復習
- 第15回 -
- 第16回 -

〔 成績評価 〕

試験(0%)、レポート(50%)、小テスト(0%)、課題提出(50%)、その他の評価方法(0%)

〔 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 〕

学習した事柄は毎回復習しておきましょう。次回の土台となります。教科書には音声ダウンロードが付いています。日頃から耳も慣らすよう心がけましょう。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔 試験・レポート等のフィードバック 〕

提出のフィードバックは次回の授業時に行います。

〔 ディプロマポリシーとの関連性 〕

4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力に該当します。ドイツ語を学ぶことによりコミュニケーションの可能性を広げ、アクセスできる情報を増やすとともに、ドイツ語圏諸国の文化や歴史への理解を深めます。

〔 テキスト 〕

薦田奈美、渡邊紗代、Angela Niehaus 著『行ってみようドイツ！コミュニケーション・ドイツ語講座[改訂版]』2023年、白水社。本体2,700円+税。
教科書は2023年発行の[改訂版]を使いますので、古書店等で旧版を買わないように注意してください。

〔参考文献〕

中島悠爾、平尾浩三、朝倉巧『必携ドイツ語文法総まとめ
－改訂版－』白水社、2003年、本体1600円＋税。
独和辞書はさまざまな出版社から出ています。特に指定はありません。電子辞書でも可。

〔備考〕

語学の講義は、読む、書く、聞く、話すという視聴覚要素で構成されていますが、視覚や聴覚に障がいがあり提供の視聴覚教材の利用が難しい場合は、申し出てください。別の方法を考えます。

日本語特講(留学生)Ⅰ	
科目ナンバー	GFL2103-S
1単位：前期1コマ	1～2年
ドイル 綾子	

〔到達目標〕

- ①日本語の学術的文章作成に必要な技能、知識を習得する。(通年)
- ②自分や他者の文章を批判的に読む力をつける。(通年)

〔履修の条件〕

これから卒業論文や修士論文、博士論文を執筆する予定であること。

〔講義概要〕

本授業では、日本語で学術的文章を書く上で必要な技能を、講義と演習によって身につけていきます。毎週、授業で扱う技能を使って小論文を書く課題が出されます。対面授業の場合には、翌週の授業において、課題文章を他の受講生と検討し合います。遠隔授業になった場合には、講師が提出された文章に対してコメントを入れ、返却します。

対面授業であれ遠隔授業であれ、「書く」課題と授業への積極的な取り組みを期待します。

■授業計画

- 第1回 ガイダンス 講義の進め方、授業に使用するテキストや参考文献の紹介、
学術的文章とは何か
- 第2回 学術的文章にふさわしい日本語－講義－
- 第3回 学術的文章にふさわしい日本語－文章検討－
- 第4回 一文一義で書く－講義－
- 第5回 一文一義で書く－文章検討－
- 第6回 文と文の関係を明示する－講義－
- 第7回 文と文の関係を明示する－文章検討－
- 第8回 明確な語句を使う－講義－
- 第9回 明確な語句を使う－文章検討－
- 第10回 「マップ」を使って書く－講義－
- 第11回 「マップ」を使って書く－文章検討－
- 第12回 全体を構成する－講義－
- 第13回 全体を構成する－文章検討－
- 第14回 全体を構成する－文章検討－
- 第15回 -

第16回 -

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(100%)、その他の評価方法(0%)

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

テキストの指定箇所を読む。

毎週習った技能を意識し、文章を作成する。

本科目では各授業回に約50分の準備学習を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

対面授業の場合→対話によって文章を検討しながら行う。

遠隔授業の場合→講師が文章にコメントを入れ、返却する。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

4.他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力に該当する。

学術的文章の書き方を学ぶことを通して、自己の考えを深化し、その考えを他者に端的に伝えることができる能力の獲得を目指す。

〔テキスト〕

佐渡島紗織・吉野亜矢子(2008)『これから研究を書くひとのためのガイドブック－ライティングの挑戦15週間』ひつじ書房
2,160円

〔参考文献〕

浜田麻里・平尾得子・由井紀久子(1997)『大学生と留学生のための論文ワークブック』くろしお出版 2,700円

日本語特講(留学生)Ⅱ	
科目ナンバー	GFL2104-S
1単位：後期1コマ	1～2年
ドイル 綾子	

〔到達目標〕

- ①日本語の学術的文章作成に必要な技能、知識を習得する。(通年)
- ②自分や他者の文章を批判的に読む力をつける。(通年)

〔履修の条件〕

これから卒業論文や修士論文、博士論文を執筆する予定であること。

〔講義概要〕

本授業では、日本語で学術的文章を書く上で必要な技能を、講義と演習によって身につけていきます。毎週、授業で扱う技能を使って小論文を書く課題が出されます。対面授業の場合には、翌週の授業において、課題文章を他の受講生と検討し合います。遠隔授業になった場合には、講師が提出された文章に対してコメントを入れ、返却します。

対面授業であれ遠隔授業であれ、「書く」課題と授業への積極的な取り組みを期待します。

■授業計画

- 第1回 論点を整理して書く-講義-
- 第2回 論点を整理して書く-文章検討-
- 第3回 数え上げて書く-講義-
- 第4回 数え上げて書く-文章検討-
- 第5回 パラグラフを作る-講義-
- 第6回 パラグラフを作る-文章検討-
- 第7回 抽象度を調節する-講義-
- 第8回 抽象度を調節する-文章検討-
- 第9回 参考文献を示す-講義-
- 第10回 参考文献を示す-参考文献リスト検討-
- 第11回 ブロック引用をする-講義-
- 第12回 ブロック引用をする-文章検討-
- 第13回 要約引用をする-講義-
- 第14回 要約引用をする-文章検討-
- 第15回 -
- 第16回 -

【成績評価】

試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(100%)、その他の評価方法(0%)

【予習・復習の内容及びそれに必要な時間】

テキストの指定箇所を読む。

毎週習った技能を意識し、文章を作成する。

本科目では各授業回に約50分の準備学習を必要とする。

【試験・レポート等のフィードバック】

対面授業の場合→対話によって文章を検討しながら行う。

遠隔授業の場合→講師が文章にコメントを入れ、返却する。

【ディプロマポリシーとの関連性】

4.他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力に該当する。

学術的文章の書き方を学ぶことを通して、自己の考えを深化し、その考えを他者に端的に伝えることができる能力の獲得を目指す。

【テキスト】

佐渡島紗織・吉野亜矢子(2008)『これから研究を書くひとのためのガイドブック-ライティングの挑戦15週間』ひつじ書房 2,160円

【参考文献】

浜田麻里・平尾得子・由井紀久子(1997)『大学生と留学生のための論文ワークブック』くろしお出版 2,700円

憲法	
科目ナンバー	GSS2103-L
2単位：前期1コマ	1～2年
金子 和夫	

【到達目標】

国の最高法規である日本国憲法について理解できる。社会福

祉士国家試験、各種公務員採用試験などに寄与できるとともに、日常生活にも学んだ知識が活用できる。

【履修の条件】

本科目は、社会福祉士の受験資格を希望する者は、「権利擁護を支える法制度」とあわせて履修すること。それ以外の者もそうしてほしい。

【講義概要】

本講義は国民主権、平和主義、基本的人権の尊重という基本原理を中心に、具体的事例をあげながら講義する。中でも基本的人権を中心に、その一般理論、自由権、社会権の内容について判例をあげながら紹介する。さらに、三権分立や地方自治についても講義する。

■授業計画

- 第1回 ガイダンス授業(法の一般理論・憲法の基本原理)
- 第2回 国民主権
- 第3回 平和主義
- 第4回 基本的人権の一般理論(幸福追求権)
- 第5回 基本的人権の一般理論Ⅱ(平等権)
- 第6回 自由権Ⅰ(精神的自由)
- 第7回 自由権Ⅱ(人身の自由)
- 第8回 自由権Ⅲ(経済的自由)
- 第9回 社会権Ⅰ(生存権)
- 第10回 社会権Ⅱ(生存権に関する判例)
- 第11回 社会権Ⅲ(教育権、勤労権、労働基本権)
- 第12回 三権分立(その抑制と均衡)
- 第13回 財政(政教分離原則、公私分離原則)
- 第14回 地方自治(自治体の事務、条例)
- 第15回 試験
- 第16回 -

【成績評価】

試験(80%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(20%)

【成績評価(備考)】

授業中の質問に対して答える姿勢がとれていること。正答でなければ評価対象とならない訳ではなく、質問を正確に聞き、講義資料・新聞・TV等で予習・復習した範囲で答える努力を示すことが大切である。それに対して評価する。

【予習・復習の内容及びそれに必要な時間】

憲法に規定される基本的人権を始めとした理念・原則・条文に関し、新聞記事やTVニュース等に関心を持つこと。また、授業中に配布された資料で必ず復習すること。

本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

【試験・レポート等のフィードバック】

リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。授業中の口頭質問に対する解答については、その都度コメントする。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

2.全人的なヒューマンケアに必要な高度な専門性に該当する。人権と生活を守り、人間性豊かな人生を送ることができるよう援助できる、また、そのような人生を送ることを可能にする社会の形成に貢献するために、心と福祉と魂の高度な専門職に必要とされる価値、知識、技術を身につける。

〔テキスト〕

テキストは使用しない。毎回講義資料を配布する。

〔参考文献〕

憲法に関する文献は、専門的な研究書から受験参考書まで数多くあるので、自分で使いやすい文献を利用すること。

渋谷他『憲法1・2・3』＜有斐閣アルマ＞（有斐閣）

初宿他『いちばんやさしい憲法入門』＜有斐閣アルマ＞（有斐閣）

芦部信喜『憲法』（有斐閣）など

〔備考〕

授業はキャッチボール形式です。教員の質問に対し多くの学生に答えてもらう形式で進めます。

権利擁護を支える法制度		
科目ナンバー	GSS2104-L	
2単位：後期1コマ	1～2年	
金子 和夫		

〔到達目標〕

民法を中心に権利擁護制度について理解できる。成年後見制度や消費者保護制度、損害賠償制度、虐待防止関係制度、不服申立て制度などについて説明できる。社会福祉士国家試験や公務員試験などに寄与できるとともに、日常生活にも学んだ知識が活用できる。

〔履修の条件〕

本科目は、社会福祉士国家試験の指定科目であり、国家試験受験希望者は「憲法」とあわせて必ず履修すること。

〔講義概要〕

民法を中心に憲法、行政法について講義する。民法では、成年後見、契約、不法行為、親族・相続、行政法では、行政処分や不服申立てを中心に学習する。さらに、消費者・利用者の権利擁護を支える仕組みと法的諸問題、それに係る機関・専門職について、その実際を理解する。

■授業計画

第1回	ガイダンス(法の基礎)
第2回	行政法(行政処分と不服申立て、行政訴訟、国と自治体の関係)
第3回	民法(契約と消費者保護)
第4回	民法(国家賠償を含む損害賠償)
第5回	民法(夫婦とDV防止法)
第6回	民法(親子と児童虐待防止法)
第7回	民法(扶養・相続と高齢者虐待防止法)

第8回 民法(権利能力、行為能力)

第9回 成年後見制度(制度の概要)

第10回 成年後見制度(任意後見を含めた利用動向)

第11回 成年後見制度(成年後見制度利用促進法、成年後見制度利用支援事業、日常生活自立支援事業)

第12回 権利擁護制度(組織、団体と専門職)

第13回 権利擁護制度(権利擁護の意義と仕組み)

第14回 権利擁護制度(権利擁護活動と意思決定支援)

第15回 試験

第16回 -

〔成績評価〕

試験(80%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(20%)

〔成績評価(備考)〕

授業中の質問に対して答える姿勢がとれていること。正答でなければ評価対象とならない訳ではなく、質問を正確に聞き、講義資料・新聞・TV等で予習・復習した範囲で答える努力を示すことが大切である。それに対して評価する。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

少子高齢社会における高齢者の実態、知的障がい者や精神障がい者を取り巻く状況などについて、新聞記事やTVニュース等に関心を持つこと。また、授業中に配布された資料で必ず復習すること。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

リアクションペーパーに対するフィードバックを次の講義内容において行う。授業中の口頭質問に対する解答については、その都度コメントする。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

2.全人的なヒューマンケアに必要な高度な専門性、および、3.総合的・実践的な学習能力に該当する。本科目を学ぶことにより、人権と生活を守り、人間性豊かな人生を送ることが出来るよう援助するために福祉の専門職に必要な価値、知識を得る。また、ものごとの本質を把握し、問題点の発見、分析、事態の改善、解決策の提言・実行できる学習能力を得る。

〔テキスト〕

テキストは使用しない。毎回講義資料を配布する。

〔参考文献〕

憲法、行政法、民法それぞれにテキストが多数出版されているので、自分で使いやすい文献を利用すること。

川井健『民法入門』（有斐閣）

石川他『はじめての行政法』＜有斐閣アルマ＞（有斐閣）

『権利擁護を支える法制度』（中央法規）

『法学』（全国社会福祉協議会）

〔備考〕

授業はキャッチボール形式で行います。教員の質問に対し多くの学生が答える方法で授業を進めます。

社会学

科目ナンバー	GSS2105-L
2単位：前期1コマ	1～2年
西下 彰俊	

〔到達目標〕

我々の人生を社会学の基礎概念の一つである「ライフコース」という観点から捉える。ライフコースとは何かについて受講生に理解してもらう。

社会学では、このライフコースの前半に焦点を当てる。特に、子ども、女性を中心にしつつ、日本社会ではどのような社会問題があるかを理解する。比較の準拠点としてスウェーデンを選び、スウェーデンと日本を比較する。

〔履修の条件〕

特になし。

〔講義概要〕

ライフコースの前半に焦点を当て、現代社会で生起している様々な問題を素材に社会学的観点から捉えることとする。取り上げるトピックスは、いじめ、ひきこもり、モラトリアム、失業、フリーター、派遣社員などである。これらの社会問題を、「家族の小規模化」、「核家族化」、「家族の個人化」、「産業化」、「少子化」、「IT化」等の社会変動という背景要因と関連づけて、分かりやすく説明する。

■授業計画

第1回	オリエンテーション
第2回	社会学の基礎概念その1 地位と役割、属性と業績
第3回	社会学の基礎概念その2 ライフコース、役割変動
第4回	社会学の基礎概念その3 マージナルマン
第5回	社会学の基礎概念その4 核家族化、家族変動
第6回	何故、晩婚化・非婚化が進むのか
第7回	晩婚化と非婚化は社会問題ではない
第8回	何故、いじめがなくなるのか
第9回	いじめと福祉論
第10回	何故、ひきこもりとニートが増えたのか
第11回	ひきこもりの自由とその危うさ
第12回	健康を害するライフスタイルとしてのタイプ A
第13回	性別役割分業とは何かー平等社会スウェーデンと比較する
第14回	全体のまとめ
第15回	試験
第16回	-

〔成績評価〕

試験(75%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(25%)

〔成績評価(備考)〕

毎回のリアクションペーパーの内容から積極的な参加度の程度を調べ、成績評価に加味する(25%)。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

オリエンテーションで配付する資料を参考にする。配付資料に

は、各回の授業で取り上げる資料・文献のリストを載せるので、毎回当該文献・資料を予習しまた復習する。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。なお、リモート授業の場合には、毎回配布教材をポータルに添付し、毎回2本(各30分)の動画教材のURLをポータルに掲載する。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

毎回授業内容に関する問いを1問ないし2問設定し、リアクションペーパーに記述してもらう。そのリアクションペーパーに対するフィードバックを後日の講義において行う。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

社会学は社会関係学であるし、人間関係学でもある。本講義を通じて、全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性を身に付けることが到達目標である。

〔テキスト〕

テキストは使用しない。レジュメを配布する。

〔参考文献〕

第1回のオリエンテーションで配付する資料を参考にする。加えて、授業内で適宜紹介する。

社会学Ⅱ

科目ナンバー	GSS2106-L
2単位：後期1コマ	1～2年
西下 彰俊	

〔到達目標〕

人生後半のライフコースに焦点を当て、家族関係、定年退職、介護といったトピックスを中心に社会学の概念を用いながら学ぶ。加えて要介護高齢者、認知症高齢者の介護に焦点を当て、韓国や台湾という東アジアの国々での介護政策のあり方と比較しながらグローバルなセンスも身につけることを目標に掲げる。特に介護に関しては、社会全体の課題であると同時に、受講生一人ひとりの老後問題として感得するセンスを身につけることを学ぶ。最終的には、認知症フレンドリーコミュニティ構築に向けて、我々一人一人に何ができるのかを考える。

〔履修の条件〕

社会学Ⅱを履修するには、社会学Ⅰが履修済みであることが望ましい。

〔講義概要〕

個人のライフコースの後半部分において、家族や社会と関わる部分について学ぶ。特に介護(ケア)が重要なライフイベントになるので、要介護高齢者、認知症高齢者をめぐる介護問題、地域福祉問題について、韓国や台湾と比較しながらグローバルな視点から詳しく論じる。

■授業計画

第1回	オリエンテーション
第2回	人生後半のライフコースと関連する社会学のキー概念、サクセスフルエイジングの説明(その1)

- 第3回 人生後半のライフコースと関連する社会学のキー概念、生きがいの説明(その2)
- 第4回 日本社会の高齢化のマクロな将来予測を、スウェーデン・韓国・台湾と比較
- 第5回 日本の要介護高齢者・認知症高齢者と介護保険
- 第6回 日本の在宅サービス
- 第7回 日本の施設サービス
- 第8回 日本における高齢者虐待の現状、原因、防止対策
- 第9回 韓国の要介護高齢者・認知症高齢者と介護保険
- 第10回 韓国の在宅サービスと施設サービス
- 第11回 韓国における高齢者虐待の現状、原因、防止対策
- 第12回 台湾の要介護高齢者・認知症高齢者と介護制度
- 第13回 台湾の在宅サービスと施設サービス
- 第14回 まとめ-各国の介護システムの強みと弱み
- 第15回 試験
- 第16回 -

【成績評価】

試験(80%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(20%)

【成績評価(備考)】

毎回のリアクションペーパーの内容から授業に対する積極的参加度を把握し、評価に加味する。リモート授業の場合には、期末レポートが50%、毎回の授業時に示す問に対する解答状況が50%の配分となる。

【予習・復習の内容及びそれに必要な時間】

テキストで扱う章及び論点について予習および復習をすること。毎回の授業で、次回で扱う内容の予告をする。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

【試験・レポート等のフィードバック】

毎回2問前後のクイズを出し受講生の知識や意見をリアクションペーパーに解答してもらう。そのフィードバックを次回の授業の冒頭で行う。

【ディプロマポリシーとの関連性】

社会学は、人間関係学であり、社会関係学である。授業内容の理解を通じて、2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性を習得することが本講義の到達目標である。

【テキスト】

西下彰俊『東アジアの高齢者ケア：韓国・台湾のチャレンジ』（新評論，2022年）

【参考文献】

適宜、授業中に紹介する。

【備考】

なし。

文化史

科目ナンバー

GHU 2102-L

2単位：前期1コマ

1年

上村 敏文

【科目補足情報】

宗教文化士の資格試験に対応します。

【到達目標】

日本文化を中心に概説的に、また大陸、外国との関係、交流にも関心を持ちつつ学んで行きます。総合的な文化的、国際的見地を養う事ができることを目標としています。

【履修の条件】

特にありませんが、広く文化に興味を持つことを希望します。積極的に講義に参加するために、一度は、各自が最も関心のある領域で課題を提出していただきます。内容は文化に関することであればテーマは問いません。事前に内容について個別に協議します。

【講義概要】

日本文化史を中心に学びつつ、古代においては朝鮮半島、中国との関係、あるいはシルクロードを通りかはるかペルシア等、中東との関係を、国風文化においては、源氏物語や日記文学を取り上げつつ平安の世界を学び、中世の武家文化は特に折形の殿中礼法の初歩を実技とともに取り上げます。また、近現代においては欧米文化との交渉、交流史を学びます。

■授業計画

- 第1回 オリエンテーション：
全体構造と日本の文化概説
- 第2回 古代文化史 縄文と弥生 新しい考古学の成果等をふまえて
- 第3回 古代文化史 大陸、朝鮮半島との交渉
- 第4回 中古文学の世界(1)万葉集と日本文化
- 第5回 中古文学の世界(2)源氏物語にみられる音楽、文化
- 第6回 中古文学の世界(3)日記文学 女流文化の中核
- 第7回 香の文化 その起源と発展について
- 第8回 武家文化 武家礼法(折形) 伊勢流と小笠原礼法
- 第9回 茶道の世界とキリスト教
- 第10回 能楽の世界(1) 能の起源と思想
- 第11回 能楽の世界(2) キリシタン能の歴史とその可能性
- 第12回 道の文化 武士道とキリスト教
- 第13回 歌舞伎、文楽の世界 庶民の文芸の勃興について
- 第14回 日本文化とは何か。講義の後にリアクションペーパーなどで簡単にまとめをします。
- 第15回 -
- 第16回 -

【成績評価】

試験(0%)、レポート(50%)、小テスト(30%)、課題提出(20%)、その他の評価方法(0%)

【予習・復習の内容及びそれに必要な時間】

日本史を高校時代に選択していない場合は、高校レベルの教

科書、参考書で各時代について復習をしておくこと。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

講義に関してのフィードバックを次回に反映させる。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

「3. 総合的・実践的な学習能力」に該当する。いろいろな文化を学ぶことにより、より他者を理解することが出来る。キリストの心を文化の視点から、とくに日本文化の中でどのような可能性があるかを共に考察してゆく。

〔テキスト〕

特に指定しません。講義中に適宜参考文献を紹介しします。

〔参考文献〕

網野善彦『日本の歴史』岩波新書
観世清和『新訳風姿花伝』PHP
中野剛志『日本思想史新論』ちくま新書
上村敏文編『日本の近代化とプロテスタンティズム』教文館
笠谷和比古編『徳川社会と日本の近代化』思文閣
桜井徳太郎『日本人の生と死』岩崎美術社
坂部慶夫『聖書のことばと茶のこころ』淡交社

中世史との対話

科目ナンバー	GHU2104-L	
2単位：前期1コマ		1～2年
早川 朝子		

〔到達目標〕

ヨーロッパ中世の初期から末期までの大まかな歴史の流れと時代の特徴を理解する。
ヨーロッパの中世史を学ぶうえで重要となる歴史学上の概念を習得する。

〔履修の条件〕

歴史学は過去を学ぶ学問ですので、過去の出来事に関心をもっていることが重要です。

〔講義概要〕

ヨーロッパ中世の社会においては、芸術や学問、さらには人々の日常生活にまでキリスト教の影響が及びました。この授業では、キリスト教が浸透し定着していったヨーロッパ中世の歴史を概観したうえで、教会建築、巡礼、教会暦、死生観など人々の日常に関わる具体的な事柄をとり上げ、それぞれにみられるキリスト教の影響や中世の人々の考え方などを考察します。なお、とり上げる事柄は状況により変更する場合があります。
授業は講義が中心で、配付するプリントに沿って進めていきます。また関連する地図や画像をパワーポイントで見えていきます。最後に学んだことの確認や振り返りのための練習問題を行います。

■授業計画

第1回 ヨーロッパの地理、時代区分と西暦、「ヨーロッパ」の名

称

- 第2回 中世史の大まかな流れ、キリスト教の誕生、古代から中世へ
- 第3回 中世前期から中期のヨーロッパとキリスト教
- 第4回 中世後期のヨーロッパとキリスト教
- 第5回 修道院
- 第6回 教会建築
- 第7回 巡礼と聖地
- 第8回 農村：農産物と農業経営
- 第9回 都市：古代から中世へ、生活環境
- 第10回 中世の人々の日常と死生観
- 第11回 教会暦と時間
- 第12回 十二世紀ルネサンスと中世の人々の「世界」
- 第13回 ユダヤ人
- 第14回 疫病の流行と医学
- 第15回 試験
- 第16回 -

〔成績評価〕

試験(50%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(50%)

〔成績評価(備考)〕

授業の最後に行う練習問題にどのくらい真剣に取り組んだか、授業中やその後に積極的に発言したり質問したりしたかなど、授業に臨む姿勢を重視します。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

配付したプリントなどをよく見て、前回の授業内容の復習をすることが望ましいです。登場する人物についてはそれぞれが何をしたのか、歴史学上の概念についてはそれぞれが何を意味するのかといったことを確認し、整理するようにしてください。本科目では各授業回に4時間の準備学習(予習・復習等)を必要とします。合計15回の授業で60時間となります。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

練習問題については、その次の回に正解を提示し解説を行います。また、練習問題の最後に質問や意見・感想を書く欄を設けますので、何かある場合には書いてもらい、書かれたことに対しては必ず回答するようにします。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

3.総合的・実践的な学習能力に該当します。総合的・実践的な学習能力を養ううえで、基本となるのは、文献や資料を見て、そこから何が読みとれるのかを的確に理解し整理することと考えます。歴史学はそのような学問の基本を身につけるのに役立ちます。

〔テキスト〕

指定しません。プリントを配付します。

〔参考文献〕

神崎忠昭『新版 ヨーロッパの中世』(慶應義塾大学出版会、2022年)3000円。
堀越宏一・甚野尚志編著『15のテーマで学ぶ中世ヨーロッパ史』(ミネルヴァ書房、2013年)3500円。

甚野尚志・堀越宏一編『中世ヨーロッパを生きる』（東京大学出版会、2004年）2800円。

近世史との対話

科目ナンバー	GHU2105-L
2単位：後期1コマ	1～2年
早川 朝子	

【到達目標】

宗教改革の経過とそれがヨーロッパ社会に及ぼした影響についての理解を深める。

ヨーロッパの近世史を学ぶうえで重要となる概念を習得する。

【履修の条件】

歴史学は過去を学ぶ学問ですので、過去の出来事に関心をもっていることが重要です。

【講義概要】

ルネサンス・宗教改革を経て時代は中世から近代へと移行し、近代の最初の300年ほどを近世と呼んでいます。近世の初めに宗教改革が起きて、新たなキリスト教の宗派、プロテスタントが誕生します。その後ヨーロッパでは、カトリックを信仰する地域とプロテスタントを信仰する地域との間で宗派対立が激しくなっていきます。この授業では、ドイツの宗教改革について詳細に考察したうえで、他地域への宗教改革の広まりや、オランダの独立、改暦、三十年戦争など、宗派対立に関わる出来事を取り上げていきます。なお、授業の各回で扱う内容は状況により変更する場合があります。

授業は講義が中心で、配付するプリントに沿って進めていきます。また関連する地図や画像をパワーポイントで見えていきます。最後に学んだことの確認や振り返りのための練習問題を行います。

■授業計画

第1回	時代区分、1500年頃のヨーロッパ、近世史の大まかな流れ
第2回	ルネサンス
第3回	宗教改革のはじまり：『九十五カ条の論題』と贖宥状販売、ルターの足跡
第4回	宗教改革者になるまでのルター
第5回	ローマ教皇・ドイツ国王との対決、宗教改革の予期せぬ展開
第6回	ルターの家庭生活、宗教改革前のヨーロッパ社会とドイツ
第7回	ドイツにおける宗教改革の展開、宗教改革と都市社会、宗教改革の先駆者たち
第8回	宗教改革思想の伝達：木版画
第9回	スイスの宗教改革：ツヴィングリとカルヴァン
第10回	再洗礼派の誕生と広まり
第11回	イングランドの宗教改革
第12回	フランス宗教戦争、オランダの独立、改暦
第13回	三十年戦争、科学革命：ガリレイ
第14回	三十年戦争後のヨーロッパ、魔女狩り
第15回	試験
第16回	－

【成績評価】

試験(50%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(50%)

【成績評価(備考)】

授業の最後に行う練習問題にどのくらい真剣に取り組んだか、授業中やその後に積極的に発言したり質問したりしたかなど、授業に臨む姿勢を重視します。

【予習・復習の内容及びそれに必要な時間】

配付したプリントなどをよく見て、前回の授業内容の復習をすることが望ましいです。登場する人物についてはそれぞれが何をしたのか、歴史学上の概念についてはそれぞれが何を意味するのかといったことを確認し、整理するようにしてください。本科目では各授業回に4時間の準備学習(予習・復習等)を必要とします。合計15回の授業で60時間となります。

【試験・レポート等のフィードバック】

練習問題については、その次の回に正解を提示し解説を行います。また、練習問題の最後に質問や意見・感想を書く欄を設けますので、何かある場合には書いてもらい、書かれたことに対しては必ず回答するようにします。

【ディプロマポリシーとの関連性】

3.総合的・実践的な学習能力に該当します。総合的・実践的な学習能力を養ううえで、基本となるのは、文献や資料を見て、そこから何が読みとれるのかを的確に理解し整理することと考えます。歴史学はそのような学問の基本を身につけるのに役立ちます。

【テキスト】

指定しません。プリントを配付します。

【参考文献】

ローランド・ベントン著、出村彰訳『宗教改革史』（新教出版社、2017年）2800円。

ティム・ダウリー著、青木義紀訳『地図で学ぶ宗教改革』（いのちのことば社、2017年）2400円。

君塚直隆『ヨーロッパ近代史』（筑摩書房、2019年）1000円。

教育学

科目ナンバー	GHU2106-L
2単位：後期1コマ	1～2年
橋本 憲幸	

【到達目標】

本講義の目標は、「教育」とは何かについて、さらには「よい教育」とはどのようなものかについて、教育論議やこれまでの自身の被教育体験に囚われすぎず、また、教育学の諸理論を踏まえながら、自ら考えられるようになることです。それは、これが教育だ、教育はこうあるべきだとすぐに解を出すということでは必ずしもありません。たしかに教育に関する答えを求める姿勢も必要です。しかしそれ以上に重要なことは、教育に関する問いを自ら立て、その事柄について自ら吟味し続けられるようになることです。自らいっ

たん出した解を疑えるようになることも大切です。

〔履修の条件〕

履修希望者は可能なかぎり初回の講義に出席してください。そこで講義の進め方や課題などについて説明します。やむをえない事情で初回に出席できない場合や出席できなかった場合は必ず早めに申し出てください。

〔講義概要〕

私たちは、これまで教育を受けてきた体験があることから、「教育」とは何かについて、そして「よい教育」とはどのようなものかについて、自分なりの見方を持つようになります。しかし、それは本当に「よい」もののでしょうか。また、それは本当に「教育」なののでしょうか。別の角度から捉えたとき、それは「教育」とも「よい教育」とも呼べないものかもしれません。それは「学習」と呼ばれるべきものかもしれませんし、「教育」ではなく「福祉」なのかもしれません。本講義では、「教育」とはどのようなものなのか、それは他者にどのように関与することなのか、人間をどのようにしようとするものなのかを改めて根底から考えるための契機を提供します。自分がどのような教育観を有しているのかを自覚し、それを教育学の諸理論を踏まえて自省することが重要です。その過程で、教育には答えがない、教育には答えしかない、教育について考えても仕方がない、と開き直りたくなることがあるかもしれません。その前で踏みとどまり、教育について粘り強く省察し続けていくことを強く期待します。

■授業計画

- 第1回 講義「教育学」のねらいと進め方
- 第2回 「教育」とは何か
- 第3回 何が「教育」なのか
- 第4回 教育学は「教育」をどう定義するか
- 第5回 教育の本質とは何か
- 第6回 教師はなぜ教えられるか
- 第7回 教育は民主主義的に決定すべきか
- 第8回 学校は必要か
- 第9回 教育は社会を変革できるか
- 第10回 教育は社会を子どもから守れるか
- 第11回 教育は子どもを社会から守れるか
- 第12回 学校は子どもを家庭から守れるか
- 第13回 教育は子どもの幸せを願えるか
- 第14回 よい教育をできるのは誰か
- 第15回 試験
- 第16回 -

〔成績評価〕

試験(60%)、レポート(20%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(20%)

〔成績評価(備考)〕

授業内課題(毎時のリフレクション・ペーパーの記入と提出など)

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

予習では、教育に関する文献や報道に目を通し、そこで「教育」がどのように捉えられているのかを理解します。復習では、当該回で言及した文献を実際読み、講義内容の理解を深めます。本科目では各講義回におよそ200分の準備学習(予習・復習

等)を必要とします。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

リフレクション・ペーパーのフィードバックを次回講義冒頭で実施します。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

とりわけ「2.全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に関連します。他でもない教育という他者への関わり方への理解を深めます。教育とは何かを突き詰めることで、教育ではない他者関与の輪郭に触れることにもなり、そのあり方を追究する際の手がかりとなるはずです。

〔テキスト〕

使用しません。文献を適宜紹介します。

〔参考文献〕

- ヘレン・M・ガンター、2020、『教育のリーダーシップとハンナ・アーレント』末松裕基・生澤繁樹・橋本憲幸訳、春風社。(3,000円+税)
- 橋本憲幸、2018、『教育と他者——非対称性の倫理に向けて』春風社。(4,000円+税)
- 末松裕基編、2016、『現代の学校を読み解く——学校の現在地と教育の未来』春風社。(2,300円+税)

教養としての哲学

科目ナンバー	GHU 2107-L
2単位：前期1コマ	1～2年
白井 雅人	

〔到達目標〕

- (1) 哲学の歴史について、大まかな理解を得る。
- (2) 哲学的な概念に対して、自分なりに説明できるようになる。
- (3) 自分自身の考え方に対して、批判的な視座を得る。

〔履修の条件〕

履修に当たって、条件は課さない。

〔講義概要〕

哲学の歴史を簡単にたどりながら、哲学的な考え方を身につけていくことを目指す。予備知識なしで、哲学的な考え方に親しむことができるようにしていきたい。西洋の哲学の歴史に留まらず、インドの釈迦や中国の孔子などの思想、日本の哲学思想などを見ていく。現実の中に隠れている秩序の発見というのが哲学の課題の一つとなっている。この課題がどのようなものであるのか、どのように現実の中に隠れている秩序を発見するのかを見ていきたい。

■授業計画

- 第1回 イントロダクション：夏目漱石を手がかりに考える
- 第2回 井上円了の妖怪学と哲学
- 第3回 古代ギリシアの哲学者たち
- 第4回 ソクラテスの弁明と社会への警告

- 第5回 目に見えた姿と思考で捉えた姿
 第6回 イデアと哲人政治
 第7回 仏教の前史：古代インドの初期思想
 第8回 ブッダの言葉(1)：サイの角のようにただ独り歩め
 第9回 ブッダの言葉(2)：一切の生きとし生けるものは、幸せであれ
 第10回 ユダヤ教の創世期と預言者たち
 第11回 孔子の言葉(1)：仁の思想
 第12回 孔子の言葉(2)：君子のあり方
 第13回 儒教の展開：朱子の理気二元論
 第14回 西田幾多郎の『善の研究』
 第15回 -
 第16回 -

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(60%)、小テスト(0%)、課題提出(40%)、その他の評価方法(0%)

〔成績評価(備考)〕

レポートは学期末に提出。レポートにウェブサイトからの無断引用があった場合、不合格となる。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

配布プリントをよく読み返し、理解を定着させることが望ましい。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

リアクションペーパーへのフィードバックは、次回の講義において行う。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

「1. いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」に該当する。この科目を履修することで、哲学的な視座で人間を捉え、人間の好ましいあり方について検討し、人間を多面的にとらえ総合的に考えることができる。

〔テキスト〕

毎回プリントを配布する

哲学と論理		
科目ナンバー	GHU2108-L	
2単位：後期1コマ	1～2年	
白井 雅人		

〔到達目標〕

- (1) 言葉と人間の問題について、大まかな理解を得る。
- (2) 哲学的な概念に対して、自分なりに説明できるようになる。
- (3) 自分自身の考え方に対して、批判的な視座を得る。

〔履修の条件〕

履修に当たって、条件は課さない。

〔講義概要〕

言葉と人間について考えながら、哲学的な考え方を身につけていくことを目指す。予備知識なしで、哲学的な考え方に親しむことができるようにしていきたい。まず、言語の問題について見ていき、次いで薬物依存の問題を見ていく。これらによって「自分で何とかする」ということの困難さを学び、人間は言語や環境に大きな影響を受けながら生きているということを哲学的に見ていく。

■授業計画

- 第1回 イントロダクション：自己を物語ること
 第2回 ヴィトゲンシュタインの言語ゲーム理論
 第3回 ジェンダーと言葉
 第4回 コミュニケーションの前提
 第5回 討議倫理
 第6回 薬物依存からの「回復」(1)：薬物依存と共助組織
 第7回 薬物依存からの「回復」(2)：回復のステップ
 第8回 薬物依存からの「回復」(3)：回復を支える社会へ
 第9回 障害を克服する主体とは？
 第10回 人間の尊厳は何にあるのか？
 第11回 近代的主体の病
 第12回 西田幾多郎の哲学(1)：行為と社会
 第13回 西田幾多郎の哲学(2)：預言者的実存
 第14回 まとめ：言葉と人間
 第15回 -
 第16回 -

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(60%)、小テスト(0%)、課題提出(40%)、その他の評価方法(0%)

〔成績評価(備考)〕

レポートは学期末に提出。レポートにウェブサイトからの無断引用があった場合、不合格となる。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

配布プリントをよく読み返し、理解を定着させることが望ましい。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

リアクションペーパーへのフィードバックは、次回の講義において行う。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

「1. いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」に該当する。この科目を履修することで、哲学的な視座で人間を捉え、人間の好ましいあり方について検討し、人間を多面的にとらえ総合的に考えることができる。

〔テキスト〕

毎回プリントを配布する

〔参考文献〕

相良翔「薬物依存からの「回復」：ダルクにおけるフィールドワークを通じた社会学的研究」、ちとせプレス、2019年

スポーツと健康(体育実技を含む)A	
科目ナンバー	GPE2101-P
2単位：前期1コマ	1～2年
仲宗根 森敦	

〔到達目標〕

生涯にわたり健康で豊かな生活をおくるためには、日常的な運動・スポーツの実践が重要であり、自身の体調を管理する方法や栄養学的な知識の習得が必要不可欠である。この講義では、生活習慣病の予防、運動を介した体調管理、日常的に運動に親しむような態度や知識を獲得することを目的とする。

〔履修の条件〕

履修の条件

- ①運動・スポーツや身体トレーニングに関心があること
- ②他者とのコミュニケーションをとることができること
- ③実技が可能であること
- ④実技は様々な学生と一緒に行うが、その点を理解してこの授業に積極的に参加できること

〔講義概要〕

健康で豊かな日常生活を過ごすためには運動に対する理論的な知識や技術、態度といったものが不可欠になります。そのような運動に対する知識を学び、簡単な運動を行うことで自分の身体の調子を整えたり生涯にわたって運動に親しむ態度を身につける方法を学んでいきます。

■授業計画

- 第1回 「ガイダンス」 授業の目的と進め方について概説する
- 第2回 (実技①)「体づくり運動」動くことを楽しむための体づくりの運動を実践する
- 第3回 (実技②)「ラジオ体操」ラジオ体操を実践する
- 第4回 (実技③)「ウォーキング」脂肪燃焼を目的とした有酸素トレーニングを実践する
- 第5回 (実技④)「なわとび①」短なわとびの実践
- 第6回 (実技⑤)「なわとび②」長なわとびの実践
- 第7回 (実技⑥)「なわとび③」様々ななわとび運動の応用の実践
- 第8回 (実技⑦)「球技」バスケット3VS3
- 第9回 (実技⑧)「球技」バスケット6VS6
- 第10回 (実技⑧)「球技」ウォーキングフットサル
- 第11回 (講義①)運動と栄養
- 第12回 (講義②)運動と心
- 第13回 (講義③)生活習慣病とその予防
- 第14回 まとめ(授業内でのレポート作成)
- 第15回 -
- 第16回 -

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(30%)、小テスト(70%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(0%)

〔成績評価(備考)〕

講義全体の2/3以上の出席をしていること。

毎回授業の小レポートの提出をすること(1回5点×14回分)

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

実技においては着替え、運動用の靴について準備してください。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

レポートやリアクションペーパーに対するフィードバックを次の講義内容において行う。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

3総合的・実践的な学習能力に関連する。自分の健康、体力、コンディショニングを把握し、健康な生活や高い体力を獲得するための方法論を理解し、実践する能力を養う。

〔テキスト〕

テキストについてはとくに購入はしないが、各講義概要についての資料を適宜配布することとします。

〔参考文献〕

なし

〔備考〕

第1回のオリエンテーションでは、本講義の進め方や成績、約束事など大変重要なことを説明します。そのため必ず出席するようにしてください。もし欠席する場合には、担当者と事前に連絡を取るようになってください。また、本授業に関し欠席した場合には、欠席分のプリントを特別に配布することはありませんので自助努力で補うようにしてください。各自運動着およびランニングシューズを用意すること。実技授業の際には、アクセサリ類や貴金属は外して臨むこと。本授業は天候や授業理解度によって、講義内容が変更になることがあります。

スポーツと健康(体育実技を含む)B	
科目ナンバー	GPE2102-P
2単位：後期1コマ	1～2年
仲宗根 森敦	

〔到達目標〕

健康な生活を生涯にわたり営むには、運動の実践やスポーツ活動への参加が必要不可欠である。日常的な運動・スポーツの実践は身体に様々な適応と変化をもたらす。生活習慣病の予防や減量などのポジティブな適応や、突然死や熱中症などのネガティブな側面も有する。本講義では、運動に対する知識を学び、自分の身体の調子を整えたり生涯にわたって運動に親しむ態度を身につける方法を学ぶことを目的とする。本講義は座学と実技を融合して行う。

〔履修の条件〕

- ①運動・スポーツや身体トレーニングに関心があること
- ②他者とのコミュニケーションをとることができること
- ③実技が可能であること

④実技は男女一緒に行うが、その点を理解してこの授業に積極的に参加できること

【講義概要】

講義にて、運動が身体に与える生理的な適応を概説する。それぞれの体力や年齢に合わせて運動が健康に与える影響について学び、生涯にわたり実践できるポピュラーなスポーツ・運動を実践する。

■授業計画

第1回	ガイダンス、オリエンテーション(講義の進め方および実技に対する注意事項等の説明)
第2回	(実技)スポーツ実践①ウォーキングフットサル
第3回	(実技)スポーツ実践①ウォーキングフットサル
第4回	(実技)スポーツ実践②バスケット
第5回	(実技)スポーツ実践②バスケット
第6回	(実技)スポーツ実践③ドッチビー
第7回	(実技)スポーツ実践③ドッチビー
第8回	(実技)スポーツ実践④ベタンク
第9回	(実技)スポーツ実践⑤アルティメット
第10回	(実技)スポーツ実践⑥まとめ
第11回	(実技)スポーツ実践⑦ダンス
第12回	(講義)「運動と栄養」運動後の食事の影響について
第13回	(講義)「運動との関わり」青年期・壮年期・高齢期の各時期において運動とどのように関わるべきかを理解する
第14回	まとめ(授業内でのレポート作成)
第15回	-
第16回	-

【成績評価】

試験(0%)、レポート(30%)、小テスト(70%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(0%)

【成績評価(備考)】

講義全体の2/3以上の出席をしていること。
毎回授業の小レポートの提出をすること(1回5点×14回分)。

【予習・復習の内容及びそれに必要な時間】

実技においては着替え、運動用の靴について準備してください。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

【試験・レポート等のフィードバック】

レポートやリアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。

【ディプロマポリシーとの関連性】

3総合的・実践的な学習能力に関連する。自分の健康、体力、コンディショニングを把握し、健康な生活や高い体力を獲得するための方法論を理解し、実践する能力を養う。

【テキスト】

テキストについてはとくに購入はしないが、各講義概要についての資料を適宜配布することとします。

【参考文献】

なし

【備考】

第1回のオリエンテーションでは、本講義の進め方や成績、約束事などの大変重要なことを説明します。そのため必ず出席するようにしてください。もし欠席する場合には、担当者と事前に連絡を取るようになしてください。また、本授業に関し欠席した場合には、欠席分のプリントを特別に配布することはありませんので自助努力で補うようになしてください。

各自運動着およびランニングシューズを用意すること。

実技授業の際には、アクセサリ類や貴金属は外して臨むこと。

本授業は天候や授業理解度によって、講義内容が変更になることがあります。

音楽の基礎

科目ナンバー	GHU 2109-P
2単位：前期1 コマ	1～2年
渡邊 公実子	

【到達目標】

1.楽典の基礎知識を学び、前期では特に14種類の全音階的音程の判別ができるようになる。2.創作リズムを作成し、ボディーパーカッションで表現する。(個人またはグループで発表)3.創作したリズムを楽譜に書き起こし、仲間と共有して演奏する。4.読譜力を身につける。

【履修の条件】

音楽に興味を持つ者。授業内容を毎回復習し、知識・技術の習得に努力すること。

【講義概要】

音楽は古来より、人間の身体や魂に調和をもたらし、また、豊かな人間形成に深く関与するものとして、大切な教養科目とされてきた。この授業では、歴史の中で様々な文化を背景に育まれ、受け継がれてきた「人に調和をもたらす音楽」を、自分自身の力で読み取り、表現へとつなげる基礎力を養うことを目標とする。前期は基礎的な音楽理論(楽典)を学びながら、音楽実技(視唱・リズム打ち・リズム創作・ボディーパーカッションの個人又はグループ発表)に取り組む。後期の「音楽の実践」も前期に引き続き基礎的な楽典の学びは継続される。1年間で楽典の基礎知識を得ることを目指す。履修者の人数やレベル、社会状況に応じて授業内容は変更されることがある。

■授業計画

第1回	オリエンテーション・講義内容の説明 読譜能力・基礎知識テスト
第2回	楽譜について/読譜スピードテスト1/音程についてⅠ
第3回	楽譜の歴史/音程についてⅡ
第4回	リズムの基礎/音楽用語
第5回	音程(全音階的音程)Ⅰ/リズム創作Ⅰ
第6回	倍音について/リズム創作Ⅱ
第7回	リズム創作Ⅲ
第8回	楽典復習/リズム創作Ⅲ

- 第9回 小試験Ⅰ
 第10回 音階Ⅰ(長音階のしくみと種類)/呼吸と発声Ⅰ
 第11回 声帯の動き・喉の仕組みについて(DVD鑑賞)
 第12回 音階Ⅱ(長音階15種)/呼吸と発声Ⅱ
 第13回 小試験Ⅱ/読譜スピードテスト2
 第14回 音階Ⅲ(短音階のしくみ)/アンサンブル(歌唱・リズムなど)
 第15回 リズム創作発表(実技試験)
 第16回 -

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(40%)、課題提出(40%)、その他の評価方法(20%)

〔成績評価(備考)〕

その他の評価方法：授業内で行う実技試験の評価など。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

楽典の基礎知識は復習をして、暗記する努力が必要な場合もある。本科目では各授業回に4時間の準備学習(予習・復習等)を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

講義内で行った小テストの答案返却・解説は、原則としてテストを実施した翌週に行う。提出された課題プリント等は、添削して返却。実技発表については、適宜、授業内に口頭でコメントする。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

「3.総合的実践的な学習能力」「4.他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。ミュージック・リテラシーを得ること、高めることで、より深く音楽作品を読み解き、味わうことが可能となる。また、音楽を通してその背景にある思想や文化に関心を持ち、理解を深めることにより、豊かな教養を身につけることができる。音楽の学びは、調和のとれた全人的な人間形成にとって必要不可欠なものであり、音楽を探究することは真理を見つめることにも繋がる。自己表現のためだけでなく、他者と共感し、思いを交わすコミュニケーションツールの一つである音楽を学ぶことは、また一方で、総合的・実践的な学習能力の開発・探究そのものといえる。

〔テキスト〕

改訂『音楽通論』教育芸術社(934円+消費税)ISBN 978-4-87788-421-5

その他、随時プリントを配布

〔参考文献〕

必要に応じて授業内で紹介。

〔備考〕

毎回、次の3点を持参すること。

- 1.テキスト 2.配布したプリント 3.筆記用具(楽譜を書く時には鉛筆使用が望ましい)
 (※テキストは早めに準備し、毎回必ず持参すること)4.時間計測できるもの(携帯可)

音楽の実際

科目ナンバー	GHU2110-P
2単位：後期1コマ	1～2年
渡邊 公実子	

〔到達目標〕

1.楽譜から音楽を読み取る基礎力を身につける。2.基本的な音楽理論を一通り理解し、簡単な分析や伴奏付けができるレベルになる。3.指揮法の基礎を学び、実践できるようになる。

〔履修の条件〕

「音楽の基礎」を履修済みが望ましい。後期から受講する場合は、前期「音楽の基礎」の授業内容を第3回の授業時まで努力して習得する必要がある。

〔講義概要〕

音楽は古来より、人間の身体や魂に調和をもたらし、また、豊かな人間形成に深く関与するものとして、大切な教養科目とされてきた。この授業は、前期に引き続き、歴史の中で様々な文化を背景に育まれ、受け継がれてきた「人に調和をもたらす音楽」を、自分自身の力で読み取り、表現へと繋げる基礎力を養い、体得することを目標とする。前期に引き続き基礎的な音楽理論(楽典)を学びながら、音楽実技にも取り組む。実技は、実践に役立つ指揮法の基礎を学び、簡単な楽曲の指揮ができるようになることを目指す他、リズム打ちや視唱、書き取りなど適宜行う予定。履修者の確定と共に、人数やレベル、社会状況に応じて授業内容は変更されることがある。

■授業計画

- 第1回 オリエンテーション・講義内容の説明
基礎知識テスト・前期学習内容の復習Ⅰ/リズム・アンサンブルⅠ
 第2回 前期学習内容の復習Ⅱ/音名と音程(全音階的音程)/リズム・アンサンブルⅡ
 第3回 音程Ⅰ(半音階的音程)/指揮法の基礎/リズム・アンサンブルⅢ
 第4回 音程Ⅱ(半音階的音程)/指揮法の基礎と実践Ⅰ(DVD鑑賞)
 第5回 音階の仕組み(長調)/指揮法の基礎と実践Ⅱ
 第6回 音階の仕組み(長調・短調)Ⅰ/調性について/指揮法の基礎と実践Ⅲ
 第7回 音階の仕組み(長調・短調)Ⅱ/調名・調号Ⅰ/指揮法実践
 第8回 小試験Ⅰ
 第9回 移調・転調Ⅰ/関係調Ⅰ/調名・調号Ⅱ
 第10回 移調・転調Ⅱ/関係調Ⅱ/楽典総合問題Ⅱ
 第11回 基礎的な楽典の復習/和音・和声について
 第12回 和音Ⅰ(コードネーム)/音楽用語・奏法
 第13回 和音Ⅱ(コードネーム)/
 第14回 小試験Ⅱ/音楽鑑賞(DVD)
 第15回 音楽理論総合問題/指揮法実技試験
 第16回 -

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(40%)、課題提出(40%)、

その他の評価方法(20%)

〔成績評価(備考)〕

その他の評価方法：授業内で行う実技試験の評価など。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

学習した楽典の基礎知識は、その都度よく復習して暗記する努力が必要なことがある。本科目では各授業回に4時間の準備学習(予習・復習等)を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

講義内で行った小テストの答案返却・解説は、原則としてテストを実施した翌週に行う。提出された課題プリント等は、添削して返却。実技発表については、適宜、授業内に口頭でコメントする。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

「3.総合的実践的な学習能力」「4.他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。ミュージック・リテラシーを得ること、高めることで、より深く音楽作品を読み解き、味わうことが可能となる。また、音楽を通してその背景にある思想や文化に関心を持ち、理解を深めることにより、豊かな教養を身につけることができる。音楽の学びは、調和のとれた全人的な人間形成にとって必要不可欠なものであり、音楽を探究することは真理を見つめることにも繋がる。自己表現のためだけでなく、他者と共感し、思いを交わすコミュニケーションツールの一つである音楽を学ぶことは、また一方で、総合的・実践的な学習能力の開発・探究そのものといえる。

〔テキスト〕

改訂『音楽通論』教育芸術社(934円+消費税)ISBN 978-4-87788-421-5

(※必ず購入すること)

〔参考文献〕

必要に応じて授業内で紹介。

〔備考〕

毎回、次の3点を持参すること。

1.テキスト2.配布プリント3.筆記用具(楽譜を書く時に鉛筆使用が望ましい)

(※テキストは早めに準備し、毎回必ず持参すること)

社会福祉入門	
科目ナンバー	ISW2101-L
2単位：後期1コマ	1年
高山 由美子	

〔到達目標〕

①我が国の社会福祉制度の成り立ちを理解する。
②社会福祉制度の根幹である社会福祉関係法(特に社会福祉法、生活保護法、児童福祉法)について、それぞれの成り立ちとその内容についての基礎的な知識を習得する。

〔履修の条件〕

社会福祉士国家試験の受験を希望している学生は必ず履修すること。

2・3年次で「ソーシャルワーク実習」の履修を希望する学生は、本科目を一定の成績(良)以上で単位取得済みであることが必須条件となる。

編入生で上記について希望している場合は「社会福祉の基礎」を履修済みであること。

欠席が3分の1を超えた場合は、定期試験の受験資格を失うことになるので、注意すること。

〔講義概要〕

本講義では、社会福祉法制度及びこれに基づく社会福祉施設・機関等に関する基本的な知識を習得することを目的として講義を中心に進める。具体的には、社会福祉法をはじめとする、社会福祉関係各法・制度の枠組みを学ぶ。さらに、各法制度等の内容を理解し、課題、問題点の考察も試みる。

■授業計画

第1回	オリエンテーション/到達目標、講義概要、評価について 社会福祉入門を学ぶための準備
第2回	社会福祉法制度の歴史についての理解
第3回	社会福祉法制度の背景と社会福祉の定義についての理解
第4回	社会福祉法の理解①
第5回	社会福祉法の理解②
第6回	社会福祉法の理解③
第7回	社会福祉法の理解④
第8回	社会福祉法の理解⑤
第9回	社会福祉法の理解⑥
第10回	社会福祉法の理解⑦
第11回	生活保護法の理解①
第12回	生活保護法の理解②
第13回	児童福祉法の理解①
第14回	児童福祉法の理解②
第15回	定期試験
第16回	-

〔成績評価〕

試験(70%)、レポート(30%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(0%)

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

本科目では、各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)が必要となる。授業で取り上げる法制度に関連する出来事(ニュースや法制度の動向等)などにも関心を持ち、その背景を理解するように努めること。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

リアクションペーパーに対するフィードバックは、次回以降の授業時に必要に応じて行う。レポートについては授業終了までに返却し解説する。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

2「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」3「総合的・

実践的な学習能力」に該当する。この科目を履修することによって社会福祉専門職に必要な知識を獲得すると同時に、ものごとの本質を把握し解決策を目指す姿勢をとって高度な専門性と総合的・実践的な学習能力を身につける。

【テキスト】

必要な資料は適宜配布する。

いずれの出版社のものでもよいが、必ず『社会福祉小六法』の最新版を購入すること。

配付資料(すでに授業で取り上げたものも含めて)と『社会福祉小六法』は毎回の授業に必ず持参すること。

【参考文献】

『国民の福祉と介護の動向2023/2024年版』(厚生統計協会)

【備考】

実務経験のある教員による科目

ソーシャルワーカーとしての経験を活かして、社会福祉法制度及びこれに基づく社会福祉施設・機関等に関する講義を行う。

精神保健	
科目ナンバー	ISW2102-L
2単位：後期1コマ	1～4年
添田 雅宏	

【到達目標】

この講義ではわが国における精神保健の現状と対策について関心を持ち、対人援助職としての人間理解を深めていきます。またライフステージにおける精神保健の重要性と課題を理解し、国試に必要な知識の習得と併せて、人が生きていく上で精神保健がなぜ不可欠なのか講義とグループワークを通して考えます。答えを出すための知識・技法だけではなく、心の健康を考え続ける専門職に必要な知識、初歩的な考え方やスキルを身に付けることが授業の到達目標です。

本講義では精神保健福祉士、臨床心理技術者等対人援助の職に就く基本的な技術の獲得を目標としてグループワークを行います。学生本人の心身の状態の良し悪しに関わらず、基本的にはグループワークへの参加は必須とし、参加できない場合はその理由の提出を求めます。

【履修の条件】

履修登録を行った者

【講義概要】

精神保健は、心の健康保持・増進を目指す学問と実践です。「心の健康とは何か」を深く知るため国試対策用の講義だけではなく、自分の心の健康を増進するための技術や具体的な実践方法を体験してもらうためのワークショップを行います。心の健康を増進・維持するための手法を在学中に獲得しておくことは、今後の人生にとって様々な局面で役に立つと思われます。また他者を理解するためには自己を理解することが不可欠なため、自分の強み(ストレングス)と弱み(ウィークネス)に気づくセッションなども用意しています。原則として一方的にただ聞いているだけの講義にはしません。

参加型、協働型の講義となります。受講生の性格や考え方は最大限考慮しますが、積極的な参加を歓迎します。

■授業計画

第1回	精神保健の概要と課題 ・自己紹介 精神保健学とは ・なぜ精神保健が必要か ・あなたの心が健康であるために
第2回	精神保健の基礎知識/こころのしくみの理解 ・こころが健康であるとは ・強いこころ、弱いこころ、しなやかなこころとは ・こころのバランスの取り方(食べる、寝る、動く、話す、忘れる) *マインドフルネス体験など
第3回	ライフサイクルにおける危機と課題 ・乳幼児期 ・学童期 ・思春期 ・青年期 ・老年期
第4回	海外の精神保健事情の紹介 ・イギリスの精神医療保健福祉改革の紹介 ・リカバリーカレッジの実践 ・ストレングス、エンパワメント、リカバリー ・リカバリー(ディスカバリー)の考え方 ・オープンダイアログの紹介 ・諸外国の実践紹介
第5回	精神障害の分類と特徴および精神保健学的アプローチ① ・代表的な精神障害の分類と説明 ・統合失調症 ・気分障害(うつ病、双極性障害、新型うつ)
第6回	精神障害の分類と特徴および精神保健学的アプローチ①② ・パーソナリティ障害 ・発達障害
第7回	長期在院者問題 ・日本固有の問題として、負の歴史として歴然と横たわっている 精神科病院に長期入院されている方の実情を精神保健学的視点から考える *DVD鑑賞
第8回	自殺対策 ・わが国の自殺問題の現状を理解しその対策について考える *いのちの電話・東京都自殺相談ダイヤル・SNS相談等
第9回	依存症対策 ・アルコール依存症 ・薬物依存症 ・ギャンブル依存症
第10回	家族関係と精神保健 ・家族関係が精神保健に及ぼす影響 ・精神医療保健福祉領域における家族のあり方について

- ・家族を支えるシステムについて
- 第11回 精神保健活動の実際
 - ・行政機関の役割(国、都道府県、区市町村)
 - ・保健所が果たす役割
 - ・市区町村の実践
- 第12回 居宅生活支援における対人援助職の役割を考える(グループワーク)①
 - ・架空の事例を用いたロールプレイ
 - ・ソーシャルスキルトレーニング(SST)
- 第13回 精神保健福祉ユーザーからの視点を学ぶ
 - ・精神保健医療福祉制度を利用している当事者を招いて、その方の歴史や支援者に対しての思いを伺う
- 第14回 講義のまとめ
- 第15回 -
- 第16回 -

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(60%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(40%)

〔成績評価(備考)〕

その他の評価はリアクションペーパーとグループワークでの言動を見ます。

正当な理由なくグループワークを欠席した学生は評価が下がることがあります。

また心身の状況が悪いながらもグループワークに出席した学生や積極的にグループ力動を高める働きをしている学生は高く評価します。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

教科書の該当箇所を読む。

本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

・リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。

・発表やレポートについて、授業内に適宜口頭でコメントする。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

「1. いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」に該当する。この科目を履修することで、精神保健に関わる現代社会の問題を知り、人間の好ましいあり方について検討することを通して、人間を多面的にとらえ総合的に考えることができる。

〔テキスト〕

最新・精神保健福祉士養成講座2「現代の精神保健の課題と支援 第3版」日本ソーシャルワーク教育学校連盟編(中央法規・3,300円)

ソーシャルワーク演習Ⅰ

科目ナンバー	ISW 2103-S
2単位：前期1コマ	1年
浅野 貴博、廣瀬 圭子、大曲 睦恵	

〔到達目標〕

社会問題と社会福祉について考える。人々が直面する課題を、個人的な課題としてだけでなく、社会的な課題として理解する力を習得する。具体的な事例等を用いて、ソーシャルワークの場面と過程を想定した演習を行う。

〔履修の条件〕

社会福祉士の取得を目指す者が履修する科目である。社会福祉士の受験資格取得のための指定科目である。原則として、ソーシャルワーク実習Ⅰ開始前に履修することが求められる。

〔講義概要〕

少人数の演習で、次に掲げる具体的な事例等を活用し、支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援について実践的に習得すること。事例の背景を理解し、地域福祉の基盤整備や開発について考察する。毎回の課題について、グループダイナミクスを活用したグループ討議を行う。また、自分で調べ学習を行い考察を深める。

■授業計画

- 第1回 オリエンテーション/授業のねらいとグループダイナミクスの活用
- 第2回 虐待(児童・障害者・高齢者等)とソーシャルアクション
- 第3回 虐待(児童・障害者・高齢者等)とソーシャルワークの展開過程
- 第4回 ひきこもりとアウトリーチ
- 第5回 ひきこもりとソーシャルワークの展開過程
- 第6回 貧困と地域アセスメント
- 第7回 貧困とソーシャルワークの展開過程
- 第8回 認知症とネットワーク
- 第9回 認知症とソーシャルワークの展開過程
- 第10回 終末期ケアとチームアプローチ
- 第11回 終末期ケアとソーシャルワークの展開過程
- 第12回 災害時のソーシャルワークと地域住民の組織化と地域福祉計画
- 第13回 災害時のソーシャルワークと社会資源の活用・調整・開発
- 第14回 全体のまとめと記録
- 第15回 -
- 第16回 -

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(40%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(60%)

〔成績評価(備考)〕

毎回、授業の内容及感想を記して提出することを求める。授業内での発言・発表・質問、レポート等の提出状況と合わせて総合的に評価する。

〔 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 〕

本科目では、各授業回におおよそ200分の準備学習(予習・復習等)が必要となる。毎回の課題について、社会問題としてとらえることを意識して、自分で調べ学習を行うこと。授業後に、討議内容、講義内容を復習し、ソーシャルワーカーとしてどのように社会資源の基盤整備を行い、調整し、開発できるかについて考察すること。

〔 試験・レポート等のフィードバック 〕

リアクションペーパーに対するフィードバックは、必要に応じて次回以降の授業時に行う。

〔 ディプロマポリシーとの関連性 〕

3「総合的・実践的な学習能力」4「他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修することによって、ものごとの本質を把握し解決策を目指す姿勢をとおして総合的・実践的な学習能力を身につける。また、他者との意見交換等とおして他者への理解と自身の思いを言語化する力を身に付ける。

〔 テキスト 〕

授業時に示す。

〔 参考文献 〕

授業時に示す。

〔 備考 〕

実務経験のある教員による科目
ソーシャルワーカーとしての経験を活かして、社会問題と社会福祉の関係についての課題提起とグループ学習の指導を行う。

ソーシャルワーク演習Ⅱ

科目ナンバー	ISW3101-S
2単位：後期1コマ	1年
原島 博、福島 喜代子、山口 麻衣	

〔 到達目標 〕

相談援助に係る基礎的な知識と技術を身につける。具体的な相談事例について、総合的・包括的な援助の過程を理解する。

〔 履修の条件 〕

社会福祉士の取得を目指す者が履修する科目である。社会福祉士の受験資格取得のための指定科目である。原則として、ソーシャルワーク演習Ⅰを履修済みであること。ソーシャルワーク実習Ⅰ開始前に履修することが求められる。

〔 講義概要 〕

少人数の演習で、具体的な課題別の相談援助事例等をもとに、総合的・包括的な援助について考察し、具体的なソーシャルワークの場面及び過程を想定した実技指導を行う。ファシリテーションを行い、グループダイナミクスを活用しながら学びを深める。そして全体発表会においてプレゼンテーションを行う。

■授業計画

第1回	オリエンテーション/グループダイナミクスの活用とファシリテーション
第2回	ソーシャルワークの展開過程、自己覚知、自己理解と他者理解
第3回	ケースの発見、アウトリーチ、基本的なコミュニケーション技術、言語的技術、非言語的技術
第4回	インタビュー、契約、面接技術、面接の構造化、場の設定、ツールの活用
第5回	アセスメント
第6回	プランニング、ネゴシエーション
第7回	支援の実施、コーディネート
第8回	モニタリング、支援経過の把握と管理(記録)
第9回	チームアプローチ、ネットワーク
第10回	支援の終結と事後評価
第11回	アフターケア
第12回	個人プレゼンテーション
第13回	グループプレゼンテーション
第14回	全体のまとめ
第15回	—
第16回	—

〔 成績評価 〕

試験(0%)、レポート(40%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(60%)

〔 成績評価(備考) 〕

毎回、授業の内容と感想を記して提出することを求める。授業での発言・発表・質問、レポート等の提出状況と合わせて総合的に評価する。

〔 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 〕

本科目では、各授業回におおよそ200分の準備学習(予習・復習等)が必要となる。前期に履修するソーシャルワーク演習Ⅰの終盤で、ソーシャルワーク演習Ⅱの担当テーマが定まる。テーマを担当する教員のもと、前期の終盤に集まるので、出された夏休みの課題に取り組むこと。後期の授業開始後も、グループごとに、メンバー全員で役割分担し、自分の分担(調べ学習、整理、まとめ、集約など)を責任をもって果たすこと。

〔 試験・レポート等のフィードバック 〕

リアクションペーパーに対するフィードバックは、必要に応じて次回以降の授業時に行う。レポートについては、発表時にコメントを行う。発表時のコメントをもとに最終レポートの提出を求める。

〔 ディプロマポリシーとの関連性 〕

3「総合的・実践的な学習能力」4「他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修することで、他者理解を深め、自己表現のためのコミュニケーション能力を伸ばし、最終的にグループとして人前で学んだことを発表する能力を身につける。

〔 テキスト 〕

授業時に示す

〔参考文献〕
授業時に示す

〔備考〕
実務経験のある教員による科目
ソーシャルワーカーとしての経験を活かして、相談援助に関する基本的な知識・技術等についての講義と演習、グループ学習の指導を行う。

臨床心理フレッシュマンゼミ		
科目ナンバー	ICP 3101-S	
2単位：後期1コマ	1年	
松田 崇志、加藤 純、谷井 淳一、田副 真美、 植松 晃子、石川 与志也、高城 絵里子		

〔到達目標〕
1) 自らの関心や疑問から心理学研究としてのテーマを設定する方法を身につける。
2) 設定したテーマにしたがって文献を調査し、その内容をレポートとしてまとめるまでの過程を体験的に理解する。
3) 自分のテーマや考えを適切に文章として表現することができる力を養う。
以上を通して、文献研究を進める力を身につける。

〔履修の条件〕
臨床心理コース必修科目である。
臨床心理コース2年次編入生も原則として履修すること。
その他のコース希望者や希望コース未定者も履修できる。
3年次編入生には別途履修について説明する。

〔講義概要〕
大学では、知識を与えられる学習ではなく、自ら調べる学習が大切です。この授業では、自らの心理学的関心や疑問を研究可能なテーマとして設定し、文献研究を経てレポートを作成するまでの過程を体験的に学びます。図書館でコンピュータを用いた文献検索をしますが、スマートフォンでも文献検索が可能です。レポートはコンピュータ上で作成することを勧めます。
なお、第6回と第11回の授業は複数の教員による少人数のグループ指導を行う。

■授業計画

第1回	オリエンテーション 研究の必要性(研究はどのような役に立つのか) 文献研究とは何か。
第2回	研究論文の構成を理解する。 自分の疑問を研究につなげよう(研究テーマの例示)。
第3回	インターネットで研究論文を見つける方法(1) CiNii(サイニー)を使って研究論文を検索する方法を学ぶ。
第4回	インターネットで研究論文を見つける方法(2) 検索した論文の書誌情報を記録する(論文の著者・出版年・題名・掲載箇所)。
第5回	研究論文の読み方と研究論文の内容をレポートに書く方法

第6回	選んだ研究論文のまとめ作業とレポートの書き方(複数の教員による少人数のグループ指導)
第7回	図書館で本を検索する方法 a) 書籍のいろいろ。 b) OPAC を使って図書館で本を検索する方法。
第8回	★ 第1回レポート提出 ★ 文章表現のテクニック①：類似点を示す文・相違点を示す文
第9回	文章表現のテクニック②：数値データを示す文・具体例を示す文・一般論を示す文
第10回	文章表現のテクニック③：事実について述べる文・認識について述べる文
第11回	選んだ研究論文のまとめ作業と第2回レポートの書き方(複数の教員による少人数のグループ指導)
第12回	文章表現のテクニック④先行研究の内容を短く紹介する文
第13回	★ 第2回レポート提出 ★ プレゼンテーションの方法
第14回	第2回レポートへのコメントとまとめ。
第15回	最終レポート
第16回	-

〔成績評価〕
試験(0%)、レポート(80%)、小テスト(0%)、課題提出(20%)、その他の評価方法(0%)

〔成績評価(備考)〕
レポートは、授業内において、研究論文一つをまとめた第1回レポート、複数の研究論文をまとめた第2回レポートの2つを提出していただきます。最後に、最終レポートとして、第2回のレポートを加筆修正したものを提出してもらいます。提出課題は文献検索の結果報告などです。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕
毎回の授業の内容を踏まえて、各自、文献研究を進めてください。毎回の課題を終えて教室に持参していることを前提に授業を進めます。レポートに使用する文献はプリントして毎回の授業に持参してください。
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕
課題のいくつかは提出を求めます。提出された課題は確認をして随時返却します。
第1回レポートと第2回レポートはコメントを記して返却します。第1回レポートは再提出を求めることがあります。第2回レポートは加筆修正して期末試験期間中に最終レポートとして提出してください。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕
3. 総合的・実践的な学習能力に該当します。この科目では、支援が必要な課題や支援方法について自分自身で問を設定し、文献を調べ、調べた結果を他者に伝える力を養うことを目指します。

【テキスト】

特に定めない。下記の参考文献の中から自分に合っていると思うものを身近なところに置いて、授業の進行に合わせて関連する箇所を読むこと。その他、レポートや論文の書き方に関する書籍を探してみても良い。

【参考文献】

田中共子編(2009)『よくわかる学びの技法』ミネルヴァ書房
石黒 圭(2012)『この1冊でちゃんと書ける！論文・レポートの基本』日本実業出版社
河野哲也(2002)『レポート・論文の書き方入門 第3版』慶応義塾大学出版会
梅棹忠夫(1969)『知的生産の技術』岩波新書
浜田麻理他(1997)『大学生と留学生のための論文ワークブック』くろしお出版

【備考】

授業の進度や状況の変化などに応じて、授業内容を変更することがある。
本授業の6回目と11回目は別の曜時限にそれぞれの教員が担当する教室に分かれて実施する。詳細については、授業内で説明を行う。

心理学的支援法

科目ナンバー	ICP 2101-L
2単位：前期1コマ	1年
高城 絵里子	

【到達目標】

- ①臨床心理学と心理学的支援に関する基本的知識と考え方を身につける
- ②人間関係や社会における臨床心理学的視点の重要性について考えを深める
- ③受身的に講義を聞くだけでなくとどまらない、主体的な学びのスタイルを身につける
- ④臨床心理学に対する関心を広げ、自身の今後の学習や研究の方向性を考える基盤として本講義で身につけた知識を活用する

【履修の条件】

- ①公認心理師資格取得に必要な科目である。公認心理師資格を目指す学生は必ず受講すること。
- ②ディスカッションやグループ課題などコミュニケーションと体験を重視した科目であるため、受講生の積極的な参加を求める。

【講義概要】

臨床心理学の基本的内容を概観するとともに、公認心理師・臨床心理士の職務とその支援について理解を深める。臨床心理学の知見や視点は公認心理師・臨床心理士として活用する以外にも非常に有用である。よって、心の健康に関する知識を身につけ、それぞれが卒業後を含めた人生の中で臨床心理学の考え方をどのように役立てていけるかについても考えていきたい。基本的に講義形式の授業になるが、毎回の授業の中でグループディスカッションや質疑応答、毎回のリアクションペーパーへの

記入とフィードバックを実施することによって、学生の理解を丁寧に進めていく。また、一部の題材についてはグループ課題とし、グループごとに研究テーマの設定、文献調査および発表を経験することによって主体的な学びのスタイルを習得する。

本講では以下の内容を扱う。

- 1.代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界
- 2.訪問による支援や地域支援の意義
- 3.良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法
- 4.プライバシーへの配慮
- 5.心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援
- 6.心の健康教育

■授業計画

- | | |
|------|--|
| 第1回 | 本講の目的、内容、評価に関するオリエンテーション
コミュニケーション実習「良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法」 |
| 第2回 | 臨床心理学とは何か
その定義と歴史 |
| 第3回 | 臨床心理士と公認心理師
①求められる役割と活動の実際 |
| 第4回 | 臨床心理士と公認心理師
②養成のための教育と訓練
本学臨床心理学専攻院生によるスピーチとレポート作成 |
| 第5回 | 臨床心理士と公認心理師
③資格の倫理的問題とプライバシーへの配慮 |
| 第6回 | 心理学的支援に必要なコミュニケーション
コミュニケーション実習「信頼関係を形成するためのコミュニケーション」 |
| 第7回 | 心理学的支援の方法
心理査定①・・・心理査定とはなにか、心理査定面接の理解 |
| 第8回 | 心理学的支援の方法
心理査定②・・・心理検査の基本とその考え方 |
| 第9回 | 心理学的支援の方法
臨床心理面接①・・・その基本と考え方 |
| 第10回 | 心理学的支援の方法
臨床心理面接②・・・代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界 |
| 第11回 | 心理学的支援の方法
臨床心理学的地域援助・・・訪問による支援や地域支援の意義、心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援、心の健康教育 |
| 第12回 | 心理学的支援の対象(グループ課題)
心の問題に関するグループ発表① |
| 第13回 | 心理学的支援の対象(グループ課題)
心の問題に関するグループ発表② |
| 第14回 | 心理学的支援の対象(グループ課題)
心の問題に関するグループ発表③ |
| 第15回 | レポート |
| 第16回 | ー |

【成績評価】

試験(0%)、レポート(60%)、小テスト(0%)、課題提出(20%)、その他の評価方法(20%)

〔成績評価(備考)〕

レポートは最終課題のレポート提出を指す。

課題提出は毎回のリアクションペーパー、および授業中に実施するワーク、小レポート、グループ課題の発表資料の提出を指す。その他の評価とは、授業およびディスカッション、グループ課題への参加に関する評価を指す。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

予習では、各単元で学ぶ理論や概念について文献や辞典などを用いた学習、および臨床心理士・公認心理師資格について各自あらかじめ調べておくことを勧める。

復習として、その日の単元で扱った内容の復習と課題に対する考察、授業時間外でのグループ課題への取り組みを求める。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

リアクションペーパーに対するフィードバックを次の講義において行う。

課題レポートについては、次の授業の際、あるいは授業時にコメントを行う。

グループ発表については、授業内に適宜口頭でコメントする。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

本学ディプロマポリシーにおける「2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」「3. 総合的・実践的な学習能力」「4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。本科目を習得することにより、臨床心理学的支援の基本的な理論と方法に関する理解を深める。またグループによる文献調査と発表を通して、現在の心の問題に関する課題の発見と分析、解決への提言といった学習能力を身につけることができる。さらに、授業内でのコミュニケーション実習、ディスカッション、グループワークを通して、他者理解と自己表現のコミュニケーションを体験的に習得する。

〔テキスト〕

特に定めない。必要に応じて授業内でテキストを配布する。

〔参考文献〕

馬場禮子「臨床心理士への道」アエラブックス入門読本 朝日出版社

日本臨床心理士資格認定協会監修「新・臨床心理士になるために(令和4年版)」誠信書房

〔備考〕

「実務経験のある教員による科目」臨床心理士/公認心理師としての経験を活かして心理職の実践について講義・指導を行う。受講生と教員との対話を重視するため、毎回授業終了後にリアクションペーパーの提出を求める。

心理学統計法

科目ナンバー

ICP2102-L

2単位：後期1コマ

1年

谷井 淳一

〔到達目標〕

- ①心理学の論文を読んだり書いたりする際に必要な心理統計の初歩的知識を理解する。
- ②統計的検定の考え方を理解して、統計的に有意かどうかを判断できる。
- ③統計的検定についての基本的な例題に関して、適切な計算によって、有意な違いがあるかどうかを判断する力を養う。

〔履修の条件〕

臨床心理コースのコース必修科目であり、1年生の後期に必ず履修するように。子ども支援コースの学生の中で、心理学的研究手法を用いて卒論を書きたいと思っている場合も履修してほしい。2年生の心理学研究法Ⅰや心理学実験はこの科目の履修を前提にしている。また、授業には簡単な電卓を持ってくる。公認心理師の指定科目でもある。

〔講義概要〕

心理学は実証科学として発展してきた。つまり、何らかの方法を用いてデータを得、人間の行動や心をめぐるいろいろな現象やメカニズムを明らかにしてきた。データを得る方法には質問紙法、観察法、実験法、面接法等がある。

そして、これらの方法で得られたデータを適切に分析するためには、心理学統計法の理解が必要となる。初年度の科目として、記述統計並びに推測統計の初歩的な内容をゆっくり丁寧に講義していく。

なお、本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

■授業計画

- | | |
|------|---------------------|
| 第1回 | 名義尺度・順序尺度・間隔尺度・比率尺度 |
| 第2回 | 統計手法の選び方・ |
| 第3回 | シグマの計算方法 |
| 第4回 | 正規分布と標準得点 |
| 第5回 | 帰無仮説 |
| 第6回 | 標本分布・標準誤差 |
| 第7回 | z 検定 |
| 第8回 | t 検定 |
| 第9回 | 小テスト・対応のある t 検定 |
| 第10回 | 相関 |
| 第11回 | 相関の意味の考察 |
| 第12回 | ノンパラメトリック検定・カイ二乗検定 |
| 第13回 | 信頼性と妥当性(第1.5回動画) |
| 第14回 | まとめ |
| 第15回 | — |
| 第16回 | — |

〔成績評価〕

試験(80%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(20%)

〔成績評価(備考)〕

授業中の参加度を評価する。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

復習を中心にして、授業で解説した例題は、4時間程度の学習をし、繰り返し練習して完全にマスターしてほしい。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。動画視聴も含む。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

小テストは返却時にフィードバックを行う

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

「3. 総合的・実践的な学習能力」に該当する。この科目の理解を前提にして、2年生以降、データ解析や心理実験での統計処理が可能になる。

〔テキスト〕

「新版要説心理統計法」山上暁・倉智佐一著 北大路書房。

〔参考文献〕

授業で指示をする。

〔備考〕

教科書・ノート・電卓持ち込み可で期末テストを行う

臨床心理学概論

科目ナンバー	ICP 2103-L	
2単位：前期1コマ	1～2年	
植松 晃子		

〔到達目標〕

現在の様々な心理療法の基盤となる理論を理解する。精神分析、行動療法、来談者中心療法、一般システム理論を成り立ちから学びます。

〔履修の条件〕

心理臨床とは何か、基礎となる理論を学ぶ意欲を持った学生であること。地域の方にも開かれた公開講座です。本学の学生で聴講を希望する場合は事前に相談してください。

〔講義概要〕

臨床心理学が提案する様々な理論やアプローチは、「人」を理解するためのものです。この講義では、臨床心理学の理論に焦点を当て、それぞれの理論の背景や核となる考え方を学びます。基本的に授業計画に沿って進みますが、適宜変更することがあります。

■授業計画

- 第1回 授業についての説明：心理臨床とはどのような支援なのか
- 第2回 精神分析(1)導入：背景の理解
- 第3回 精神分析(2)局所論・構造論
- 第4回 精神分析(3)心理力動論

- 第5回 精神分析(4)発達論
- 第6回 精神分析(5)後の展開
- 第7回 行動療法(1)導入：背景の理解
- 第8回 行動療法(2)様々な技法1
- 第9回 行動療法(3)様々な技法2
- 第10回 来談者中心療法(1)導入：背景の理解
- 第11回 来談者中心療法(2)理論の展開
- 第12回 来談者中心療法(3)人格論
- 第13回 システムズ理論(1)導入：背景の理解
- 第14回 システムズ理論(2)心理社会的アプローチ
- 第15回 定期試験
- 第16回 -

〔成績評価〕

試験(80%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(20%)

〔成績評価(備考)〕

毎回授業後に質問の時間を設けます。分からないことはクラスの為にも積極的に質問してください。その他の評価方法とは、質問を含め授業への積極的参加となります。

※遠隔授業になった場合は、毎回の授業後の小レポートと、期末レポートの提出が定期試験の代わりに課題となります。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

積極的な予習・復習を勧めます。授業で扱う内容を1回ですべて理解しようとせず、各自復習することを勧めます。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とします。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

授業内容についての質問や授業で掴んだことのフィードバックの時間を毎回設ける。

定期試験では、授業で作成したノートのみ、持ち込みを可としています(教科書や辞書は不可)。授業内容については、板書を中心に各自でノートを作ってください。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

2.全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性に該当する。現在の様々な心理療法の基盤となる理論を理解し、臨床心理学を学びを深める。

〔テキスト〕

特になし

〔参考文献〕

授業時に適宜紹介する

〔備考〕

実務経験のある教員による科目。臨床心理士として実践経験のある教員が、人の心の理解のために臨床心理学の各理論がどのような視点を提供しているのかを講義する。

いのち学序説

科目ナンバー	ICS2101-L
2単位：後期1コマ	1～2年
宮本 新	

【到達目標】

「いのち」をめぐるこんにちの諸問題に目を向け理解する。特にキリスト教的人間理解の視座に立ち、人間存在を継続して思索するための基礎的知識と方法を獲得することを目標とする。

【履修の条件】

「いのち」に関する諸問題に関心を持ち、クラスでのディスカッションならびにグループワークに積極的に取り組む者。

【講義概要】

現代社会における「いのち」をめぐる諸問題を踏まえ、キリスト教の視座に学び考える授業。毎回の授業では、主体的に考え、「いのち」について自らの考えを他者に伝えたり、また他の意見に耳を傾ける学習を通して、より深い学びを求めることになる。

■授業計画

- 第1回 序論 いのち学の主題とアプローチ
- 第2回 いのち学の現在：なぜ“いのち”なのか？
- 第3回 いのちの多元性とキリスト教
- 第4回 いのちと生命倫理①
- 第5回 いのちと生命倫理②
- 第6回 いのちと生命倫理③
- 第7回 いのちと終わり①～死生学入門
- 第8回 いのちと終わり②～デスエデュケーション
- 第9回 いのちと共生～自然編
- 第10回 いのちと寄り添い
- 第11回 いのちと福祉①
- 第12回 いのちと福祉②
- 第13回 いのちと心理
- 第14回 まとめ
- 第15回 試験
- 第16回 -

【成績評価】

試験(0%)、レポート(60%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(40%)

【予習・復習の内容及びそれに必要な時間】

本科目では毎授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習)を要する。主に授業等で紹介された参考文献にあたり、授業ごとの主題について自分の意見をまとめられるよう学習する。

【試験・レポート等のフィードバック】

講義に加えて、クラス内のディスカッションや授業毎のリフレクションペーパーを積み重ね、より深い理解に到達することを目指します。学期末はそれぞれの学びの理解をはかる機会となる。

【ディプロマポリシーとの関連性】

「1. いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」と「4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」を養うことに関わる。

キリスト教的人間理解を広く学ぶこと、また個別研究をクラス履修者と共同して行う。

【テキスト】

テキストは特になし。適宜、聖書を用いる。

【参考文献】

参考書は、その都度クラスで紹介する。

人間学フレッシュマンゼミ

科目ナンバー	IAD3101-S
2単位：後期1コマ	1年
宮本 新	

【到達目標】

科目としてのキリスト教ならびに神学の内容は幅広くまた深い。その範囲とアプローチについて入門的な知識を習得する。

【履修の条件】

キリスト教について学問的に取り組むことに興味がある人。

【講義概要】

はじめてキリスト教や神学を学ぶ人のための入門講座。キリスト教にかかわる文化、心理、いのち、教理、人間と社会など幅広い専門領域について、教員たちがオムニバス形式で講義をする。「キリスト教領域」を入門的に学び、各自の研究領域を探究する演習科目となる。

■授業計画

- 第1回 序論：キリスト教領域の“研究範囲”①
- 第2回 聖書①
- 第3回 聖書②
- 第4回 キリスト教といのち①
- 第5回 キリスト教といのち②
- 第6回 キリスト教と心理①
- 第7回 キリスト教と心理②
- 第8回 キリスト教と文化①
- 第9回 キリスト教と文化②
- 第10回 暮らしの中のキリスト教①
- 第11回 暮らしの中のキリスト教②
- 第12回 キリスト教と社会①
- 第13回 キリスト教と社会②
- 第14回 まとめ：研究発表
- 第15回 レポート
- 第16回 -

【成績評価】

試験(0%)、レポート(70%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(30%)

【成績評価(備考)】

期末レポートと各授業への積極的な参加。

【予習・復習の内容及びそれに必要な時間】

本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。主に授業等で紹介された参考文献にあたること、また学期末のレポートにいたる予備的考察にあてる。

【試験・レポート等のフィードバック】

授業ごとのディカッションや質問についてはクラス内で深め、フィードバックを行います。また発表やレポートについては授業内で適宜口頭でコメントする。

【ディプロマポリシーとの関連性】

「1.いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」に該当する。本学ディプロマ1はキリスト教総体の理念と接点がある。キリスト教とその文献を考察し、その思想と実際に批判的に検討し、多面的かつ総合的な思考する術を学習する。

【テキスト】

随時配布する。

【参考文献】

新共同訳聖書

旧約聖書精読		
科目ナンバー	ICS2102-L	
2単位：後期1コマ	1～2年	
アンドリュー・ウィルソン		

【到達目標】

このコースでは、創世記の天地創造から流刑までの旧約聖書の主要な人物と出来事を紹介します。聖書の基本的な登場人物や出来事に親しむことに重点を置いています。

【履修の条件】

特にありません。旧約聖書に関心を持つ学生の積極的な参加を期待します。

【講義概要】

授業は主にテキストを読み、一緒に議論することで構成される。受講生は質問をし、説明を求めることが要求される。講義では、必要に応じて美術や音楽も取り上げます。

■授業計画

第1回	天地創造創世記1-2章
第2回	堕落創世記3-4章、エデンの園からの追放、カインとアベル、バベル：11：1-9
第3回	ノア：創世記6-9章
第4回	アブラハム、サラ、イサク創世記12-22章
第5回	イサク、エサウ、ヤコブ創世記24-35章
第6回	ヨセフ：エジプトへ創世記36-37章、39-41章
第7回	ヨセフエジプトの解放創世記42-50章
第8回	モーセ誕生、宮廷、飛行、燃える茂み、始まり出エジプト記1-6章
第9回	モーセ脱出の災い、出エジプト、ミリアムの歌。出エジプト記7章～15章21節

第10回 シナイの荒野の彷徨、十戒、金の子牛。出エジプト記15：22-20：21；24、31：12-18；32-34、40：34-38；民数記9、11、13

第11回 ダビデ：サムエル記上16～21章、23：15～25：1、26、31章、サムエル記上1～2：4、5：1～16、7、11～12：25、18、22～23：7章

第12回 エリヤ、流刑、エズラ：第2列王17：6-23、23-25、エズラ1章

第13回 詩篇の選択

第14回 イザヤ書からメシア的なテキスト

第15回 ー

第16回 ー

【成績評価】

試験(0%)、レポート(30%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(70%)

【成績評価(備考)】

リフレクションペーパーとディスカッション参加度 70%、期末レポート 30%

【予習・復習の内容及びそれに必要な時間】

指示された聖書の該当箇所をあらかじめ読むこと。ディスカッション準備も含め各授業回に200分の準備学習(予習・復習など)を必要とする。

【試験・レポート等のフィードバック】

理解できないことについて質問する。面白いと思ったこと、もっと理解したいと思ったことについて、観察する。

【ディプロマポリシーとの関連性】

「1.いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」及び「2.全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当する。この科目を履修することで、現代社会と人間存在について思考を深めるとともに、全人的なケアにあたって精神的な土台となる神学の専門的な知識を得ることができる。

【テキスト】

新共同訳聖書

【参考文献】

講義中に適宜紹介する。

【備考】

毎回、新共同訳聖書を持参すること。

食といのちと環境		
科目ナンバー	IAD2101-L	
2単位：前期1コマ	1・2年	
上村 敏文		

【科目補足情報】

前期は農業、林業、地球温暖化など、環境問題を中心に学びます。あらゆる分野において危機的状況が叫ばれています。有限

の地球資源に対して、どのような気持ちで立ち向かっていくのかを真摯に学んでいきます。

【到達目標】

さまざまな文献、資料を参照し、また映像資料を見ながら、食といのちと環境について多角的に学びます。地球の温暖化、原発問題、食糧危機などさまざまな課題について議論をしながら深めていきます。それぞれの立場で、将来の地球をしっかりと他人事ではない議論をして洞察を深めます。それぞれの体力、目標を最大限尊重しますが、自分のハードルをやや高めに設定して、積極的に講義などに取り組み、高い意識をもって環境問題に対応できる能力をしっかりとつけていくことを目標にします。

【履修の条件】

前期の間に2回、週末などを利用して、郊外の農地(埼玉県坂戸近郊、学内)の農業体験の実習を行う(軍手を各自準備のこと)。オリエンテーションには必ず出席のこと。アフリカから欧米、そして日本と、将来の地球全体について大きな視野で学んでいきますから、「食」「いのち」「環境」に関心がある人を歓迎しますし、また積極的に意識を高くもってこの重要な課題にチャレンジしてほしいと思います。適宜、学内外の環境調査(学内の植生、近隣の農業など)、また必要に応じて軽い作業(除草、ガーデニング)もします。軍手を各自用意すること。公開講座にも指定していますから、市民の方もしっかりとしたコミュニケーションができることを履修条件として追加します。

【講義概要】

日本の風土と環境、そして世界の環境について、「食といのちと環境」の見地から学んでいきます。いわゆる弥生時代以降、あるいは現代の最新の研究ですでに縄文時代から行われ始めていたと考えられる稲作と、それにまつわる文化、宗教(神道)の形成と変化、里山の形成と農業とその崩壊。鎮守の森の戦後急激な現象と都市化の影響。化石燃料を中心としたエネルギーの20世紀における消費量の急激な増加と、二酸化炭素の増大、そしてフロンガスとオゾン層の破壊などなど、従来の高度成長、競争的資本主義による根本的な社会構造の変化と危機的状況。いかにそれを克服していくかは、「意識の変化」しかありません。これからの世代が、しっかりと高い「意識」をもち、また世界が注目し始めている、縄文文化と神道の中に、その一つの打開策を見出したいと思います。「うみ やま あひだ」という自主映画が、小さな輪から大きな輪になりつつあり、フランスなど海外でも上映の依頼が来始めています。日本だけでなく、欧米諸国でも限られた地球資源をいかに大切に使用していただくということがこれからの時代にもっとも求められています。福島原発問題も含めて、賛否両論のそれぞれの立場を把握しつつ、自然エネルギーのあり方、そして各自の「意識」をしっかりと高くもつための情報提供をしていきます。そして有機農法から自然農法の理念を学びます。栃木県西那須にあるアジア学院の事例を紹介しながら、アジア、アフリカの研修生を受け入れ、現代の最先端の農法ではなく、江戸時代の循環式農法をなぜ教えそして求められているのかを学びます。希望者には研修の情報を適宜供与します。文明社会が栄えたあとに必ず生じている砂漠化について、古代と現代を比較論証していきます。とくにアメリカの農業、そして水資源の争奪戦などを紹介していきます。すでに初代ワシントン大統領の時代からあった土地問題について、学者の間からどのような警鐘が鳴らされてきたかを学びます。最後に「いのち」ということに

対して、昨今注目され始めている「平穏死」について多角的に学びます。死は必然的に、そして誰にでも予定されている事実として、徒然草にも記述があるように、生前からしっかりと学んでおく必要があります。前期はその導入をします。「いのち」の観点から、末期がんで余命1ヶ月と宣告された方(アルコール依存症、家庭崩壊など)が一つの出会いにより、新たな「いのち」を授かった実録を学びます。

■授業計画

- | | | |
|------|--------------|---|
| 第1回 | オリエンテーション | 全体構造と講義の進め方について |
| 第2回 | 日本と米作り | 自然との適応と文化 |
| 第3回 | 稲作文化と神道 | 農業と祭、儀礼 |
| 第4回 | 森と農業 | その密接な関係と歴史
森林資源と農業について、南アルプスの自然農法について学ぶ |
| 第5回 | 環境汚染と地球 | 微生物と土 |
| 第6回 | 原発と自然エネルギー | 両立をはばんできたものと今後 |
| 第7回 | 福島と農業 | 「農業、やめますか?続けますか?」 |
| 第8回 | 自然農業の可能性 | 最高かつ手がかからない農業を考える
近未来の農業について喫緊の重要課題として討議する |
| 第9回 | 有機農法とその歴史 | その間違えた方向性について
会津農民福音学校の立体農業について |
| 第10回 | アフリカと農業 | 過去、現在、そして将来
コーヒー園などの試み |
| 第11回 | 植林文化と日本 | そのユニークな取り組み |
| 第12回 | 砂漠化の現状と将来 | アフリカ、中国、そしてアメリカを中心として |
| 第13回 | いのちの尊厳と死 | だれしものが迎える「その時」をより豊かにするために |
| 第14回 | 今後の「生き方」について | のまとめと同時にリアクションペーパーなどで各自の意見などを書いてもらいます。 |
| 第15回 | — | |
| 第16回 | — | |

【成績評価】

試験(0%)、レポート(50%)、小テスト(30%)、課題提出(20%)、その他の評価方法(0%)

【成績評価(備考)】

積極的な講義の参加(ディスカッション)を望みます。毎回、リアクションペーパーなどで確認すると同時に、しっかりと講義の内容について深めるために課題図書のリーディングを指示します。しっかりとテキストを読んでいることが必要条件として求められています。

【予習・復習の内容及びそれに必要な時間】

本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

【試験・レポート等のフィードバック】

講義の中で適宜ミニレポート、試験を実施します。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

「1.いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」に該当する。この科目を履修することにより自然、社会、文化、環境に対して、人間として特に「生きる意味、意義」を中心として、総合的に考え、学んでいくことができるようにします。「食」「いのち」「環境」をキーワードとして、この困難な世の中にいかに力強く「生きて」「いくかを真剣に学んでいきたいと思っています。

〔テキスト〕

正木高志『木を植えましょう』南方新社

〔参考文献〕

山田勇『世界森林報告』岩波新書
長沼毅『鉄といのちの物語』ウェッジ選書
前田達雄、真崎明『命の恩人大山倍達』蔭書房

〔備考〕

参考文献は、講義の中でも適宜紹介していきます。基本的には配布資料。

日本の宗教	
科目ナンバー	IAD2102-L
2単位：後期1コマ	1年
上村 敏文	

〔科目補足情報〕

宗教文化士の資格試験に対応します。

〔到達目標〕

古事記の上巻を中心に読破する。適宜、対応する日本書紀の部分とを比較検討する。また万葉集についても可能な限り導入する。

〔履修の条件〕

基本的な、日本の宗教の源流、背景について学びます。

〔講義概要〕

現存する日本最古の書物としての『古事記』の上巻を中心に読んでいきます。中巻、下巻についても適宜取り上げます。また、比較資料として『万葉集』『日本書紀』も参考として使用しつつ、日本の宗教の源流を探訪します。文化、宗教、歴史等多角的に古代の日本を検証し、どのように日本人の宗教観が醸造されたかを学びます。

■授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 古事記 序文の構造について
- 第3回 古事記と日本書紀の共通点と相違
- 第4回 古事記本文 国生み神話(天地開闢)
- 第5回 古事記本文 黄泉と中国
- 第6回 古事記本文 「罪と罰」 スサノヲノミコト
- 第7回 日本の仏教 黎明期
- 第8回 日本の仏教 展開
- 第9回 日本の仏教 鎌倉仏教

第10回 仏教の将来について

第11回 チベット仏教について

第12回 ヨガと仏教

第13回 神道と仏教、キリスト教

第14回 日本宗教のまとめ

第15回 ー

第16回 ー

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(30%)、小テスト(50%)、課題提出(20%)、その他の評価方法(0%)

〔成績評価(備考)〕

積極的に講義とディスカッションに参加すること。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

古事記の音読をしますから、しっかりと読めるように準備すること。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

レポートなど、コメントシートを使用して次回の講義で反映します。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

「2.全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当する。キリストの風土と、日本の宗教がいかに融合できるかをより深く理解できるようになる。

〔テキスト〕

倉野憲司『古事記』岩波文庫

〔参考文献〕

網野善彦『海民と日本社会』新人物文庫
唐木順三『日本人の心の歴史』筑摩書房
所功『伊勢神宮』講談社学術文庫
島田裕巳『神道はなぜ教えないのか』ベスト新書
村松剛『死の日本文学史』中公文庫

キリスト教音楽実技Ⅰ	
科目ナンバー	ICS2103-P
2単位：通年	1～4年
湯口 依子、深井 李々子	

〔科目補足情報〕

実技演習の授業である。

〔到達目標〕

希望する鍵盤楽器の基礎的な技術を習得し、読譜力と表現力を身につける。

〔履修の条件〕

ピアノは保育士試験の準備を目的にする者、または教会や施設で奉仕を目的にする者が履修することができる。
リードオルガンはバイエルまたは同程度の教材終了者の履修が

望ましい。

パイプオルガンは J.S.バッハ「インヴェンション2声」程度が弾ける者が望ましい。

面接による担当者による許可が必要である。通年での履修。十分な練習を行うこと。

〔講義概要〕

ピアノは保育士試験準備を目的にする者は、「バイエル教則本」や子どもの歌の曲等のレッスンとなる。リードオルガンやパイプオルガンの実技指導は教会や諸施設での礼拝、その他の奉仕に必要な音楽技術の習得ができるようそれぞれのレベルに合わせたレッスンとなる。基本的な技術を学びながら教会音楽の作品を学ぶ。

個人レッスンの授業となるのでそれぞれが必要と思われる指導となる。

■授業計画

- | | |
|------|---|
| 第1回 | オリエンテーション。各々のレベルを確認し、レッスンの進め方やどのような曲に取り組むか説明し、課題を与える。 |
| 第2回 | 実技演習。初めて学ぶ楽器については(リードオルガンやパイプオルガン)楽器の特性や構造、弾き方などの説明をする。 |
| 第3回 | 実技演習。第3回目以降の授業においてはそれぞれのレベルに合わせてまた進み具合に合わせて練習の仕方なども含めた指導をし、課題を与えて実技演習となる。 |
| 第4回 | 実技演習 |
| 第5回 | 実技演習 |
| 第6回 | 実技演習 |
| 第7回 | 実技演習 |
| 第8回 | 実技演習 |
| 第9回 | 実技演習 |
| 第10回 | 実技演習 |
| 第11回 | 実技演習 |
| 第12回 | 実技演習 |
| 第13回 | 実技演習 |
| 第14回 | 実技演習。前期の総まとめ、および後期に取り組む課題を与える。 |
| 第15回 | — |
| 第16回 | — |
| 第17回 | 実技演習 |
| 第18回 | 実技演習 |
| 第19回 | 実技演習 |
| 第20回 | 実技演習 |
| 第21回 | 実技演習 |
| 第22回 | 実技演習 |
| 第23回 | 実技演習 |
| 第24回 | 実技演習 |
| 第25回 | 実技演習 |
| 第26回 | 実技演習 |
| 第27回 | 実技演習 |
| 第28回 | 実技演習 |
| 第29回 | 実技演習 |
| 第30回 | 実技演習 |
| 第31回 | 実技試験 |

第32回 —

〔成績評価〕

試験(30%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(70%)

〔成績評価(備考)〕

平常点：毎回のレッスンのための準備、練習を充分にして取り組むかどうかの平常評価を重んじる。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

個人レッスンなので与えられた課題を十分に練習してレッスンに臨むこと。一日に30分～40分程度の練習を重ねれば各レッスン毎におよそ240分ほどの準備で臨むことになる。14回の授業(レッスン)でおおよそ56時間となる。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

実技試験時に口頭でコメントする。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

「2.全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当する。音楽の基礎的なことを学びながら実技レッスンを受けることにより楽譜の読み方や技術的な向上を身につけることができる。また、音楽を奏することにより感性を磨くことができる。音楽を通しての奉仕やコミュニケーションなどの幅が広がる可能性が期待できる。

〔テキスト〕

それぞれのレベルに合わせて個別に指定する。

例)ピアノ：「バイエルピアノ教則本」「メトードローズ・ピアノ教則本」「子どもと遊ぶピアノ曲」(音楽之友社)等
オルガン：「教会オルガン基礎教程」(パックスエンタープライズ)「80コラール前奏曲集」「J. S. バッハオルガン曲集」(ペータース)「オルガン曲集 やさしい讃美歌前奏曲集」等

〔参考文献〕

特になし

〔備考〕

特になし

保育士特講 I

科目ナンバー	ICF 2101-L
2単位：前期1コマ	1～4年
原島 博	

〔到達目標〕

- ①保育士資格取得を目指している学生が、試験に合格できる学習スキルを身につける。
- ②国家資格である保育士としての知識を試験対策の学習を通して得る。

〔履修の条件〕

- ・保育士「国家資格」取得を目指していること。

・保育士筆記試験は9科目あるので、保育士特講Ⅱと合わせて通年で受講することが望ましい。

・第2回目の授業前までテキストの販売を行うので、各自テキストを購入すること。テキストを購入せずに第2回目以降の授業を受講することは認めない。

【講義概要】

保育士筆記試験の各科目の重要ポイントをおさえ、試験合格に向けて効率よく学習が進められるような内容である。また、本カリキュラムにより、講義を聞くことでのインプットのみならず、問題の解答を導き出すアウトプットの力がつけられることを目指す。

■授業計画

第1回	オリエンテーション	保育士試験に臨むにあたっての心構えと保育士資格を取得することの社会的メリット
第2回	保育所保育指針	保育所保育指針の全体像と必要性についての学習
第3回	保育原理	科目(保育の基本と子どもの発達及び保育の計画と評価)の理解
第4回	保育原理	科目(保護者支援と保育の現状と課題)の理解
第5回	保育の心理学	科目(子どもの発達と各発達段階の特徴)の理解
第6回	保育の心理学	科目(子どもの生活と遊び、保育の発達援助と保育、保育実践)の理解
第7回	子どもの保健	科目(子どもの発育・発達と疾病への対応)の理解
第8回	子どもの保健	科目(子どもの精神保健と事故の処置及び母子保健)の理解
第9回	子どもの食と栄養	科目(栄養の基礎知識と献立や調理の基本)の理解
第10回	子どもの食と栄養	科目(小児期の食生活と栄養)の理解
第11回	子どもの食と栄養	科目(保育現場の食育と配慮が必要な子どもの栄養)の理解
第12回	問題演習【発達編】	学習した4科目について復習と問題の解き方の演習
第13回	保育内容(保育実習理論)	科目(乳幼児期の言語発達と理論)の理解
第14回	絵画理論(保育実習理論)	科目(乳幼児期の絵画発達と理論)の理解
第15回	試験	受講科目の基礎的な理解度を確認する
第16回	-	

【成績評価】

試験(100%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(0%)

【予習・復習の内容及びそれに必要な時間】

本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。授業前にテキストの該当ページを読んで予習しておくこと。また、授業後は習った箇所を必ず復習すること。

【試験・レポート等のフィードバック】

各科目の終了時にリアクションペーパーの提出を行う。

【ディプロマポリシーとの関連性】

3. 総合的・実践的な学習能力に該当する。保育士試験対策の学習を通して、子どもから大人までの対人的な関わり方の実践を学ぶことができる。

【テキスト】

受講するには、下記の備考欄に記載する①〈テキスト通年セット〉または、②〈テキスト前期セット〉の購入が必須。友人等からの購入・譲受は認めない。尚、購入後の返金は行わない。

【参考文献】

特になし。

【備考】

①キャリア・ステーション専門学院著〈テキスト通年(保育士特講Ⅰ・Ⅱ)セット〉21,000円(税込)

テキスト10冊(保育原理、教育原理、社会的養護、子ども家庭福祉、社会福祉、保育の心理学、子どもの保健、子どもの食と栄養、保育実習理論、楽典)、法令資料、問題集。

②キャリア・ステーション専門学院著〈テキスト前期(保育士特講Ⅰ)セット〉12,000円(税込)

テキスト5冊(保育原理、保育の心理学、子どもの保健、子どもの食と栄養、保育実習理論)、法令資料。※問題集は任意購入。

保育士特講Ⅱ

科目ナンバー	ICF2102-L
2単位：後期1コマ	1～4年
原島 博	

【到達目標】

- ①保育士資格取得を目指している学生が、試験に合格できる学習スキルを身につける。
- ②国家資格である保育士としての知識を試験対策の学習を通して得る。

【履修の条件】

- ・保育士「国家資格」取得を目指していること。
- ・保育士筆記試験は9科目あるので、保育士特講Ⅰと合わせて通年で受講することが望ましい。
- ・前期に〈テキスト通年セット〉を購入していない学生は、第1回目の授業前までに〈テキスト後期セット〉の販売を行うので、各自購入しておくこと。テキストを持たずに授業を受講することは認めない。

【講義概要】

保育士筆記試験の各科目の重要ポイントをおさえ、試験合格に向けて効率よく学習が進められるような内容である。また、本カリキュラムにより、講義を聞くことでのインプットのみならず、問題の解答を導き出すアウトプットの力がつけられることを目指す。

■授業計画

第1回	法令の読み方	科目(保育士試験関連の法令の基礎的な読み解き方)の理解
-----	--------	-----------------------------

- 第2回 教育原理 科目(教育の意義と子ども観・教育思想)の理解
- 第3回 教育原理 科目(教育の実践と生涯学習、学校制度と教育制度)の理解
- 第4回 社会的養護 科目(社会的養護の基礎と歴史、児童の権利)の理解
- 第5回 社会的養護 科目(児童福祉施設と児童福祉法に基づく事業)の理解
- 第6回 社会的養護 科目(家庭的養護とソーシャルワーク)の理解
- 第7回 子ども家庭福祉 科目(児童家庭福祉の現状と歴史)の理解
- 第8回 子ども家庭福祉 科目(児童家庭福祉の法体系と費用、少子化対策)の理解
- 第9回 子ども家庭福祉 科目(社会的養護サービスと障害児保育)の理解
- 第10回 社会福祉 科目(社会福祉の概要と法体系)の理解
- 第11回 社会福祉 科目(社会保障制度と地域福祉)の理解
- 第12回 問題演習【福祉系】学習した4科目(実習理論以外)について復習と問題の解き方の演習
- 第13回 音楽理論 科目(試験範囲での音楽理論の概要)の理解
- 第14回 音楽理論 科目(音程とコードネーム)の理解
- 第15回 試験 受講科目の基礎的な理解度を確認する。
- 第16回 -

〔成績評価〕

試験(100%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(0%)

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。授業前にテキストの該当ページを読んで予習しておくこと。また、授業後は習った箇所を必ず復習すること。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

各科目の終了時にリアクションペーパーの提出を行う。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

3. 総合的・実践的な学習能力に該当する。保育士試験対策の学習を通して、子どもから大人までの対人的な関わり方の実践を学ぶことができる。

〔テキスト〕

受講するには、前期に〈テキスト通年(保育士特講Ⅰ・Ⅱ)セット〉を購入済みか、下記の備考欄に記載する〈テキスト後期(保育士特講Ⅱ)セット〉の購入が必須。友人等からの購入・譲受は認めない。尚、購入後の返金は行わない。

〔参考文献〕

特になし。

〔備考〕

キャリア・ステーション専門学院著〈テキスト後期(保育士特講Ⅱ)セット〉12,000円(税込)

テキスト5冊(楽典、教育原理、社会的養護、子ども家庭福祉、社

会福祉)、法令資料。※問題集は任意購入。

野外活動とキャンピング	
科目ナンバー	ICF2103-P
2単位：前期1コマ	1～4年
伊藤 光太郎	

〔科目補足情報〕

公益社団法人日本キャンプ協会公認「キャンプインストラクター資格」取得可能

〔到達目標〕

- ① 野外活動またキャンプの楽しさを体感する。
- ② ①を通して、指導者・支援者として子どもを対象とした野外活動またキャンプにたずさわる場合(引率などをする場合)の要点を学ぶ。
- ③ 基本的かつ実践的で、安全を重視した技術を得る。
- ④ 本授業を通して、キャンプインストラクター資格を取得する(希望者のみ)。
- ⑤ リモート授業が含まれる場合は、実技・理論をバランスよく学ぶ。

〔履修の条件〕

・授業内で必要な食材費と教材用具費合わせて3500円分の券を学生支援センター前の券売機で購入して履修登録の際に貼付すること。(雨天による内容変更・実施方法変更になった際も、他の方法で実習を行う機会を設けるため返金できません。)

・キャンプインストラクター資格取得希望者には試験があります。資格試験は、試験用紙を配布後各自試験を行い最後の授業までの間で期限を決めますので、それまでに提出してください。テキストの購入(2200円)資格試験の受験料や資格登録費15300円などの資格にまつわる費用が必要。※試験に合格しなかった場合は15300円は返金する。※テキストと併せて17500円を要する。[資格取得については希望者のみであり、授業での説明を要することから、授業開始後(履修登録後)の検討また手続きで良い。]

〔講義概要〕

【1回に2コマ分を隔週で実施します。(奇数回に実施予定)】

【諸事情で実施週が変更される場合もありますので、全週受講できるようにしておいてください。】

〔たのしみ〕

野外活動の愉快さと、誰かを野外に引率する際の安全について実地に学ぶ、笑顔と小さなチャレンジでいっぱい体験型講義。災害時にも支えになる具体的な技術を大いに含む。

キャンパス内でのアウトドア実技・演習中心の講義とする。野外活動(自然体験活動、組織や団体でのキャンプなど)の楽しさを体感しながら、アウトドア技術・安全(野外におけるリスクマネジメント)・支援者の役割を学ぶ。

キャンパス内にカマドを作り、それを利用して野外料理をするなどし、各回で学ぶ技術は以降の演習でも踏まえる流れになり、技術また安全意識を自然に会得する。

今キャンプ・アウトドアは注目され、将来様々な場面で触れてゆく

ことになり、その際に安全管理や基礎技術を得ていることは大きなアドバンテージになるため、各回時間をしっかり使い様々なチャレンジ・経験・活動をする。まずはその楽しさを体感してほしい。

晴天時は屋外での授業、雨天時は教室で理論を実施するため、授業内容の差し替え・変更が大いにあり得る。また、キャンパス内の資源(剪定木やリサイクル可能資源)を活用するため、資源の質量により活用方法を検討して内容の変更もある。

なお、リモート授業が含まれる場合は、実技だけでなく理論も多く含み、バランスよく学ぶ対応となる。・野外での実習・演習中心の授業だが、コロナウイルスの影響によってリモート授業になることがある。その際、タイミングによっては、下記授業計画を変更し、都度変更した計画を確認しながらの授業になると理解しておくこと。

※隔週が基本だが、雨天ほか事情で連続週で実施することもあり、期内の月曜3・4限は出席できるようにしておくこと。

【感染拡大状況による】

野外での実習・演習中心の授業だが、ウイルス感染症の影響によってリモート授業になることがある。その際、タイミングによっては、下記授業計画を大きく変更し、都度変更した計画を確認しながらの進める。

・リモート授業の場合は基本的に ZOOM を利用する。授業の特性上、ビデオオンが望ましい。ビデオオン不可の学生には遠慮なく申し出てもらう。

【履修学生数による対応】

履修人数が多数の場合は、全員を二つに分けて授業を行う可能性がある。

授業を行うスペースの限界があり、コロナ禍での密を避ける対策も相まって人数を小規模に保つ対応となる。

具体的な方法は初回で連絡する。

【雨天時・理論部分】

雨天時は、理論講習に変更する。ただし、基礎技術にあたる回が雨天の場合は、次週に変更する可能性もある。

野外活動の理論を学ぶために2～3回ほどの雨天は想定内とし歓迎していることでもある。

■授業計画

第1回	(1回・2回) キャンプ概論・オリエンテーション オリエンテーション、アイスブレイク、野外ゲーム、授業フィールド紹介、ねらい・持ち物・安全対策などの説明 自己紹介など
第2回	(1回・2回) キャンプ概論・オリエンテーション オリエンテーション、アイスブレイク、野外ゲーム、授業フィールド紹介、ねらい・持ち物・安全対策などの説明 自己紹介など
第3回	(3回・4回) 火を学ぶ ・野外ゲーム・薪づくり・かまどの作り方、火起こしの基本を実施。
第4回	(3回・4回) 火を学ぶ ・野外ゲーム・薪づくり・かまどの作り方、火起こしの基

第5回	本を実施。 (5回・6回) 焚火スィーツ 2回での経験を活かし火を用いたクッキングに取り組む。 薪づくり・かまど・火おこし・火の管理・火の利用などを総合的に実施。
第6回	(5回・6回) 焚火スィーツ 2回での経験を活かし火を用いたクッキングに取り組む。 薪づくり・かまど・火おこし・火の管理・火の利用などを総合的に実施。
第7回	(7回・8回) ロープワーク・クラフト 役立つロープの結び方を実施。ロープと火を活かした工作を実施。
第8回	(7回・8回) ロープワーク・クラフト 役立つロープの結び方を実施。ロープと火を活かした工作を実施。
第9回	(9回・10回) 様々な火おこし・災害時調理 原始的な火おこしに挑戦し、火を活かした災害時に役立つ調理を実施。
第10回	(9回・10回) 様々な火おこし・災害時調理 原始的な火おこしに挑戦し、火を活かした災害時に役立つ調理を実施。
第11回	(11回・12回) 刃物の使い方・サバイブチャレンジ(自分だけで焚火) ナイフを安全に使い、自分だけの焚火に挑戦する。 昨今耳にする「ソロキャンプ」の導入・サバイバル技術にもつながる。
第12回	(11回・12回) 刃物の使い方・サバイブチャレンジ(自分だけで焚火) ナイフを安全に使い、自分だけの焚火に挑戦する。 昨今耳にする「ソロキャンプ」の導入・サバイバル技術にもつながる。
第13回	(13回・14回) キャンプファイヤーをつくろう・試験対策 学生主体でキャンプファイヤーを企画運営する。授業まとめの回にもなる。 試験はレポート試験を予定しており、その説明も行う。
第14回	(13回・14回) キャンプファイヤーをつくろう・試験対策 学生主体でキャンプファイヤーを企画運営する。授業まとめの回にもなる。 試験はレポート試験を予定しており、その説明も行う。
第15回	試験 レポート試験を予定。メール提出を予定。
第16回	--

【成績評価】

試験(50%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(50%)

〔成績評価(備考)〕

レポート課題・演習での成果発表をまとめて その他の評価方法 としてある。必要に応じて都度説明する。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

資料の理解、アウトドアスキルの確認と復習、用具管理や授業実施前の備品準備、授業のための装備準備、本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

リアクションペーパー(リモートの場合はリアクションフォーム)に対するフィードバックを次回の講義時に行う。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

主に、3. 総合的・実践的な学習能力 に該当する。野外活動またキャンプは、生きる力を育む機会と捉えられ、この科目を履修することで、・自然・命・ヒューマンスキル・安全また安心・他者理解、協力、共有 などを実践的かつ総合的に学び、自身が野外活動を指導する場面でより確かなスキルで自信をもって行動できるようになる。

〔参考文献〕

公益社団法人日本キャンプ協会発行

「キャンプ指導者入門」 価格：2200円(税込み送料別)

※キャンプインストラクター資格希望者は必須。資格試験受験前に購入する。

〔備考〕

・軍手、雨具、帽子、など安全に活動するための用具や野外活動に適した服装が必要。

(基本的に、長袖・長ズボン・しっかりした靴で受講する。)

・特に雨具(レインウエア)は必須。初回授業でどのような雨具が良いかレクチャーする。

・屋外活動が多いため、虫除け、UV 対策、多目の水分など対策をすること。

・天候により、教室での授業になる場合や、授業内容の入れ替えなどがある。

・キャンパス裏庭にあたる屋外スペースをキャンプ広場として利用し、キャンパスの剪定木も薪に利用するなどキャンパス環境の影響が大きく、内容変更もありうる。

・その他状況(受講人数など)により、頻繁な変更が考えられる。

